

西九州大学

# 令和3年度 自己点検評価報告書

令和4年11月  
西九州大学 点検・評価運営委員会

## 目次

1. 企画委員会	2
2. FD委員会	5
3. 大学院FD委員会	6
4. 大学院研究科	7
5. 健康栄養学科	8
6. 社会福祉学科	10
7. スポーツ健康福祉学科	13
8. リハビリテーション学科	15
9. 子ども学科	17
10. 心理カウンセリング学科	20
11. 看護学科	23
12. 全学教務委員会	27
13. 共通教育運営委員会	28
14. 教職課程委員会	29
15. 学生支援委員会	30
16. 入試広報委員会	32
17. 図書館	33
18. リカレント教育・研究推進本部	34
19. 国際交流センター	35
20. 情報メディアセンター	38
21. SD委員会	39
22. 教職センター	40
23. 事務局	41
24. 総合評価	43

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
企画委員会 (学長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>《使命・目的、教育研究》</b>  <b>【1-1 大学ブランドの明確化および変化への対応】</b>          地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立          ◎大学改革、法令等の改正や、大学に対する社会の要請等の変化に留意しながら、継続的に検証、見直しを行う。大学改革に關しては、令和3年度中に検討の上、方向性を見出す。また、大学に対する社会的要請に応えるため、九州西部地域大学・短期大学連合産官連携プラットフォーム（QSP）事業を実績の出るかたちで実施する。          ◎各学科の強み・特色を明確化し、志願者増を実現して定員充足を図る。</p> <p><b>基準2. 学生</b>  <b>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</b>  <b>【2-2 学修支援】</b>          教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備          ・教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を整備し運営する。</p>	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>《使命・目的、教育研究》</b>  <b>【1-1 大学ブランドの明確化および変化への対応】</b>          • 看護学部は、今年度に完成年度を迎えた。定員の 90 名を超えて 105 名の入学者であった。          • 健康栄養、社会福祉学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻において、定員割れをおこしたが、全学では前年度とほぼ同じ入学者であった。          • QSP 事業では、健康医療福祉専門委員会の主幹校として一定の役割を果たすことができた。佐賀県と共同で昨年に引き続き「ウォーキングで健康イノベーション」を実施できた。ウォーキング大会に高大連携校の高校生がスタッフとして協力があった。本事業には、佐賀県からの事業委託も受けることができた。          • 大学改革準備に關しては、改組案までには至らなかった。</p> <p><b>基準2. 学生</b>  <b>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</b>  <b>【2-2 学修支援】</b>          • 新型コロナウイルス感染症の教育への影響は、対面での授業が感染防止の観点より、Teams を使ってのオンライン授業（遠隔授業）となり、教員同士でのオンライン授業の工夫がなされた。学生への貸与用ノートパソコン 70 台を準備し支援した。教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制について検討することはできなかった。</p>	6
	<p><b>基準4. 教員・職員</b>  <b>《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》</b>  <b>【4-1 教学マネジメントの機能性】</b>          大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮          • 引続き学長のリーダーシップが発揮できる運営体制を維持する。          権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築          • 引続き組織の役割及び責任を明確にした教学マネジメントを有効的に機能する。          職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性          • 引続き大学の使命・目的に沿った教学マネジメントを行う。</p> <p><b>【4-2 教員の配置・職能開発等】</b>          教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置          • 引続き、大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、配置する。          • 学内リソースの選択と集中による生産性向上に向けて教員組織の一元化を実現する</p>	<p><b>基準4. 教員・職員</b>  <b>《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》</b>  <b>【4-1 教学マネジメントの機能性】</b>          • 新しい人事評価制度は、教員の評価方法の再検討のため中止となった。          • 健康支援センターの運用に關しては、新型コロナウイルス感染症発生に伴う感染症予防のために、十分な成果を上げることはできなかった。</p> <p><b>【4-2 教員の配置・職能開発等】</b>          • 退職教員等による専任教員の確保に關しては、大学院、学部双方において手当てすることができたが、一部の学部において欠員を解消することができていない。          • 教員組織の一元化については、継続して検討して行く。</p>	5
	<p><b>【4-4 研究支援】</b>          研究環境の整備と適切な運営・管理          • 研究環境及びサポート体制を整備する。          • 研究に関する教員及び学生の満足度を調査・活用する。</p>	<p><b>【4-4 研究支援】</b>          • 学長裁量経費による学内での研究課題募集を行い 7 件の課題が採択された。科研費の応募件数 68 件に対して 26 件が採択され 38.2% の獲得率であった。</p>	7

	<p>研究活動への資源の配分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動への資源配分に関する規則を検証・見直しを行い改善を行う。</li> </ul> <p><b>基準5. 経営・管理と財務</b> 『経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計』</p> <p>【5-1 経営の規律と誠実性】</p> <p>経営の規律と誠実性の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種法令等を遵守し、管理運営に係る諸規程等を継続的に整備する。</li> </ul> <p>使命・目的の実現への継続的努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期目標・中期計画に、建学の精神、教育理念を具現化するための事業計画を掲げ、この中期計画に基づき、毎年度アクションプログラムの作成及び総括を行い、使命・目的の実現に努める。</li> </ul> <p>環境保全、人権、安全への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全計画を時代の背景に合ったものへ見直しを行い、環境推進委員会等と連携し、環境保全に関する教育を実施する。</li> <li>・学内外に対する危機管理体制を整備し、適切に機能させる。</li> </ul> <p>【5-2 管理運営の円滑化と相互チェック】</p> <p>法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、戦略的な意思決定が行えるよう学内会議等の円滑な運営に努める。</li> </ul> <p>法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能する。</li> </ul> <p>【5-3 財務基盤と収支】</p> <p>中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次中期目標・中期計画に基づき、法人本部と連携し、事業計画及び単年度予算編成を行う。</li> </ul> <p>安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的に学生募集についての継続的な努力を行う。</li> <li>・外部資金の獲得に向けて、文部科学省科学研究費補助金や各種GP等への申請件数を増やすなどの努力を継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に関する満足度調査は実施することができなかった。</li> </ul> <p><b>基準5. 経営・管理と財務</b> 『経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計』</p> <p>【5-1 経営の規律と誠実性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営に関する諸規定等の改正を行うことはできなかつた。</li> <li>・中期計画に基づく年次アクションプログラムの作成および総括は例年通り進歩させることができた。</li> <li>・環境保全計画および危機管理体制の見直しに関しては、防災備蓄の更新を行うことができた。</li> </ul>	6
	<p>【5-2 管理運営の円滑化と相互チェック】</p> <p>法人および大学の各管理運営機関との課題共有に努めるため、学内会議において全体的課題を共有することに努めた。</p> <p>・法人および大学各運営期間との間での相互チェック体制整備については継続協議となつた。</p>		6
	<p>【5-3 財務基盤と収支】</p> <p>・令和3年度事業計画及び単年度予算編成を予定通り行うことができたが、新型コロナウイルス感染症対策による臨時の出費があり、補正予算での修正を行つた。</p> <p>・学生募集に関しては、新型コロナウイルス感染症中で、課題の学生定員の確保のため「オープンキャンパス」が7・8月に実施された。公式SNSでの相談やオンラインでの学校見学の実施、学科を動画での紹介など、デジタルトランスフォーメーション(DX)を活用した本学の認知度向上に努めた結果、入学者総数は500名を超えたが、依然として健康栄養学部、健康福祉学部、リハビリテーション学部が定員未達であった。</p> <p>・私立大学改革総合支援事業への応募を行つた。2タイプ応募し、両タイプで採択となつた。科研費の採択件数は、前年度を上回つた。</p>		7
	<p><b>基準6. 内部質保証</b></p> <p>『組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル』</p> <p>【6-2 内部質保証のための自己点検・評価及び外部への公表】</p> <p>IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IR室と連携し、データの収集・分析を行い現状把握に努める。</li> </ul> <p>評価結果の公表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果を学内及び世間に公開し、大学の適切な運営に努める。</li> </ul> <p>【6-3 内部質保証の機能性】</p> <p>内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価、外部評価及び設置計画履行状況調査等の結</li> </ul>	<p><b>基準6. 内部室保証</b></p> <p>『組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル』</p> <p>【6-2 内部質保証のための自己点検・評価及び外部への公表】</p> <p>IR室と連携した情報収集に関しては、SWOT分析など各学部と連携した情報収集に努めた。中退率、卒業率、GPA分布などに関するデータも収集されている。その具体的活用に関しても各学科で活用状況をまとめた。</p> <p>・大学評価に関する情報の公開については大学WEBページを用いて公開されている。</p>	7
	<p>【6-3 内部質保証の機能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの確立に関して、本学は年次アクションプログラムを順次進歩させることで、それを中期計画に連接さ</li> </ul>		7

	<p>果を活用し、中長期的な計画を踏まえた大学運営に努める。</p> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎学生サービスの向上(施設環境・学習環境整備、学生支援の向上)により、学生第一主義を実現する。</li> <li>◎学長・理事長ミッションの具現化をはかる</li> </ul>	<p>せている。次年度も本アクションプログラムを介してPDCAを実行する。</p>	
		当該委員会 達成度集計	61/100
		達成度平均点	61/100

アクションプログラム令和元年度特記事項として以下を付加する。

- ◎学生サービスの向上(施設環境・学習環境整備、学生支援の向上)により、学生第一主義を実現する。
- 31年度終了を目指し、私立大学研究プランディング事業の充実展開をはかる。
- 支援最終年度に向けCOC+事業の展開、取りまとめを行う。
- 大学運営にイノベーションを起こし、生産性を向上させて、働き方改革を実現し、快適な職場環境を作る。
- 環境への配慮、災害への備えや情報セキュリティなど危機管理への対応等を整備する。

西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
F D委員会 (委員長)	<p>◎教育の質転換に関する FD の実施  <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教学 IR 活動・アクティブラーニングに関する FD をそれぞれ 1 回以上実施して全教職員による実効性ある活動として根付かせる。</li> <li>・学修到達度の可視化を実現する。</li> </ul> </p> <p>◎学生による授業評価  <b>【到達目標】</b>          授業評価に関する学生の実施率向上を実現する。</p> <p>○学生の学修実態調査の実施</p> <p>○シラバス作成に関する FD を年 1 回開催する。</p> <p>◎3 年間で全教員が遠隔授業の取組みの発表を FD で実施  <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間複数回の FD により、遠隔授業の教育効果の充実を図ると共に、教材づくりの方法を全学的に共有し、より良い授業を目指す。</li> </ul> </p> <p>○他大学との FD の実施  <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学と合同の FD を複数回実施し、課題・解決策の共有化を図</li> </ul> </p>	<p>◎9/9 (木) Zoom にて開催し、学長より「大学淘汰の時代に西九州大学の発展を期す教育研究上の選択と集中」と題し、「教育研究改革」と「抜本的構造改革」の二つを推し進めていく必要性があり、今後本学が変革期を支え「経済」と「環境」を担う人材養成を担うためには、地域の「経済」と「環境」を担う人材としてのデジタルエンジニアの養成が必要とのことであった。</p> <p>○8/17 (火) Zoom にて開催し、「2021 年度科研費の申請について」と、「科研費獲得には何が必要か」と題し、事務職員と教員よりそれぞれ事例紹介が行われた。</p> <p>○10/21 (木) Zoom にて開催し、高大連携校の龍谷高校の教員による次年度開講科目「SDGs 入門」について、事例紹介を含めた講演を行ってもらった。</p> <p>○全学年に対し、年 2 回の授業評価アンケートを実施。結果を本学ホームページ上にも掲載した。</p> <p>○全学年に対し、年 1 回の学修実態調査アンケートを実施した。また、アンケート項目について、学生が回答しやすい内容に変更を行った。</p> <p>○今年度は FD という形では未実施であったが、シラバス作成方法の文書の中に再度新規内容を盛り込むこととした。</p> <p>○6/3 (木)、12/2 (木) に Zoom にて開催し、「Teams による遠隔授業充実への取組み」や「ハイブリッド型授業実践」と題し、各学科より事例紹介が行われた。</p> <p>○7/29 (木) Zoom にて開催し、「本学のデータサイエンス演習」と題して、各学科より後期開講の授業について事例紹介があった。</p> <p>○2/3 (木) Zoom にて開催し、「九州生れ、九州育ち、世界を驚かせたい—地方からの第4次産業革命戦略—」と題し、オプティムバンクテクノロジーズ株の代表取締役社長による講演が行われた。なお、QSP にも案内し参加を促した。</p>	8 7 9 9 8 2 8 8 8 8 8 8
		当該委員会 達成度集計	67/90
		達成度平均点	74/100

西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
大学院 FD委員会 (研究科長)	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>◎大学院主催FD研修会の計画・実施する。</p> <p>◎院生による授業評価の継続実施と授業へのフィードバックシステムを検討する（継続）。</p>	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>◎大学院主催FD研修会で「データサイエンティストの育成について」のテーマで記念講演・シンポジウムを実施した（遠隔で学部、院職員に呼びかけ 60名が参加）。</p> <p>◎院生による授業評価の継続実施と授業へのフィードバックシステムを検討した（今年度は前期、後期に分けて授業へのフィードバックを実施）。</p>	10 6
		当該委員会 達成度集計	16/20
		達成度平均点	80/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
大学院研究科 (研究科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>『各学科・研究科の強み、特色の明確化』</b>  <b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b>  ◎QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットホーム）健康・医療・福祉分野：生活習慣病予防事業への調査・研究を推進する。</p> <p><b>【1-4 研究活動への反映】</b>  ◎教員・院生の研究活動の活性化を図る。科学研究費等外部資金への応募数、採択数の増加を目指す（継続）。</p> <p>○地域生活支援学専攻博士後期課程院生の国際学会発表を推進する。</p> <p><b>基準2. 学生</b>  <b>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</b>  <b>【2-1 学生の受け入れ】</b>  ◎入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持（継続）。  ・到達目標は定員の確保。</p> <p><b>基準3. 教育課程</b>  <b>『卒業認定、教育課程、学修成果』</b>  <b>【3-2 教育課程】</b>  ◎地域生活支援学専攻博士後期課程への指導体制の充実を図る。（継続）。</p> <p><b>基準4. 教員・職員</b>  <b>『教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援』</b>  <b>【4-2 教員の配置・職能開発等】</b>  教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置  ○大学院各専攻の教育研究に即した人事計画の策定する（継続）。</p> <p><b>基準6. 内部室保証</b>  <b>『組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル』</b>  <b>【6-2 内部質保証のための自己点検・評価及び外部への公表】</b>  ◎自己点検・評価  人事評価の実施（継続）。</p> <p><b>特記事項</b>  ◎国際化に向けての国際交流の拡大する（継続）  ○大学院広報の充実。入学者増に向けた広報活動を推進する（継続）</p>	<p><b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b>  ◎QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットホーム）健康・医療・福祉分野：生活習慣病予防事業への調査・イベント（R3年12/5 健康ウォーキングに市民234人が参加した（昨年より1.4倍増）。</p> <p><b>【1-4 研究活動への反映】</b>  ◎科学研究費等外部資金への継続課題数14件、新規課題数11件、院生研究活動として学会発表3件、投稿論文2件であった。</p> <p>○博士後期課程院生と指導教授による国際学会が2件あつた。</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b>  ◎修士課程定員18名中15名、博士後期課程定員3名中2名が入学した。  大学院収容人数45名中43名が在籍している（内、留学生6名）。</p> <p><b>【3-2 教育課程】</b>  ◎地域生活支援学専攻博士後期課程への指導体制の充実を図った。（特別研究に6名体制）。  栄養学博士後期課程、看護学修士課程認可された。</p> <p><b>【4-2 教員の配置・職能開発等】</b>  ◎リハビリテーション学専攻では教育研究に即した人事計画の策定した（特別研究に12名体制）。</p> <p><b>【6-2 内部質保証のための自己点検・評価及び外部への公表】</b>  ◎自己点検・評価  人事評価の実施をした。</p> <p><b>特記事項</b>  ◎地域生活支援学専攻どのアジアンコミュニティーカフェはコロナ禍で開催できなかった。</p> <p>○ホームページに大学院の活動（修士論文報告会などを随時掲載した。  ・新設の博士後期課程チラシを300部近隣の大学に郵送した。</p>	10 8 8 8 8 8 8 6 5 7 60/80 75/100
		当該委員会 達成度集計	
		達成度平均点	

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
健康栄養学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>《各学科・研究科の強み、特色の明確化》</b>  <b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b>            1.学科の活動を地域、職域など外部へ積極的に発信する機会を作り、知名度を高める（継続）            2.食育サポートセンターを通して地域の食育に貢献する。（継続）  <b>【1-3 教育課程への反映】</b>            1.学科の目的、目標について学科内で再度コンセンサスを図り、学生によって魅力ある教育内容に改善する  <b>【1-4 研究活動への反映（含私大研究プランディング事業）】</b>            1.外部資金獲得の推進。科研費申請率の高さを持続した状態で、採択率高める。（継続）  <b>【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】</b>            1.九州西部地域大学・短期大学連携事業に取り組む（継続）</p> <p><b>基準2. 学生</b>  <b>《学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</b>  <b>【2-1 学生の受け入れ】</b>            1.教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知            2.現在の受け入れ方針と教育目標についてこれでよいか検証を行う。（継続）            ②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証            1.本学科のアドミッション・ポリシーに共感できる学生を受け入れる方法を検討する（継続）            ③入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持            1.入学者数 120 名、志願者数 240 名、オープンキャンパス 300 名（内生徒 200 名）を目指す。（継続）</p> <p><b>【2-2 学修支援】</b>            ②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実            1.担任制度を活用したよりきめ細かいしどうをおこなう（現在のシステムを継続）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウィルス感染症により、地域での活動等は困難であった。高い国家試験合格率を維持するための環境改善に努めた。</li> <li>・食育サポートセンターは感染症蔓延防止のために活動ができなかった。</li> <li>・新カリキュラムで実施された科目の教育内容について精査した。</li> <li>・令和3年度の学科新規採択率は 21.4% で、前年度（0%）より増加した。また科学研究費の学科申請率は 94.7% であり、前年度（88.2%）から増加した。</li> </ul> <p>令和3年度は実施なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士を目指す学生が多く入学している。</li> <li>・本学科の学生は、将来管理栄養士として人のために貢献したいと望む者が多く入学している。教育目的に則した学生の受け入れができるている。</li> <li>・志願者数 145 名、入学手続き者数 102 名、最終入学者数 98 名であった。志願者数は前年度よりも減少したが、入学者数は定員充足までには至っていないが前年度と同程度であった。            （前年度；志願者数 155 名、入学手続き者数 101 名、最終入学者数 100 名）</li> <li>・オープンキャンパスは、生徒数 149 名、同伴者 119 名、合計 268 名が参加した。コロナウィルス感染症蔓延のため、過去の参加実績と比較はできないが、昨年度よりは好転した。</li> <li>・受験生が受験しやすいよう、一般入試科目及び共通テスト利用科目を見直した。</li> <li>・今年度、TA の適任者はいなかつた。</li> <li>・担任制度によるきめ細やかな指導は、学生から高評価である。</li> </ul>	8 10 10 0 8 8 8 8 8 8 10

	<p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>1.実習室、演習室は予約簿を作成して気持ちよく使えるようにする（継続）</p> <p>2.専門科目に関する実験室と実習室は担当教員を決めて使用時のアドバイスを行う（継続）</p> <p>3.実習室、演習室以外の学修環境について整備、支援する</p> <p>④授業を行う学生数の適切な管理</p> <p>・学期の終わりには授業を行う学生数に関するアンケート調査を行う（現在の方法を継続）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習室、演習室は予約簿を作成して気持ちよく使用できるようしている。土砂災害の影響により、後期から多目的室の利用ができなくなり、学生には不自由をかけたが、学生らは図書館等もうまく活用した。</li> <li>・専門科目に関する実験室と実習室は、各授業担当教員、助手により使用時のアドバイスを行った。</li> <li>・土砂災害の影響により、実習室、演習室以外の学修環境の整備、支援を実施した。</li> </ul> <p>授業を行う学生数に関するアンケートを数年間実施したが、とくに学生からの不満はなかった。</p>	10
	<p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>・学習支援に関する学生の意見をさらに把握・分析を行い、その結果について学科教員で共有し改善策を話し合い実行し満足度を高める。（継続）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生からの意見や要望などについては各学年担任会議などで検討、改善策の提案などを行っている。入学者の成績のばらつきが大きいことより、特に下位学生への支援が必要である。</li> </ul>	10
	<p><b>基準3. 教育課程</b></p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p><b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b></p> <p>①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</p> <p>②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知</p> <p>・管理栄養士国家試験対策のより一層の充実と支援強化により卒試コース学生の全員合格・全員卒業を目指す</p> <p>③単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用</p> <p>・単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準については学生便覧の記述通りに運用する。（継続）</p>	<p>明確な教育目標を掲げ、それに沿ったディプロマ・ポリシーを実践している。</p> <p>新型コロナウィルス感染症の影響で、学生の学内への入校禁止や夏休みに臨地実習Ⅱ・Ⅲの学内実習が行われる中、4年生の国家試験対策は遠隔授業、課題提示、Teams や YouTubeなどの手段を活用した講座を実施し、高い合格率を維持した。本年度より4年生後期は卒業演習あるいは卒業研究を履修し、どちらの科目においても厳正に評価している。</p> <p>単位認定については、学生便覧の記述通りに運用している。</p>	10
	<p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>①カリキュラム・ポリシーの策定と周知</p> <p>・カリキュラム・ポリシーを意識したシラバスを作成する。（継続）</p> <p>②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性</p> <p>・カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーが一貫しているか確認をおこなう。（継続）</p> <p>③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>・履修マップに示した教育課程がカリキュラム・ポリシーに沿った体型的編成になっているか確認する。（継続）</p> <p>⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>・学部FDを行い、教育方法の能力アップを目指す。（継続）</p>	<p>カリキュラム・ポリシーを意識したシラバス作成に取り組んだ。</p> <p>カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性について確認した。</p> <p>・履修マップに示したカリキュラム・ポリシーに沿った体系的編成になっているか確認した。</p> <p>・4月に学科全教員を対象に Teams による遠隔授業を円滑に進めるための学科FDを行った。</p>	10
	<p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>・学部FDを行い、教育方法の能力アップを目指す。（継続）</p>	<p>・学生による授業評価を実施している。</p> <p>・4月に学科全教員を対象に Teams による遠隔授業を円滑に進めるための学科FDを行った。</p>	10
		当該委員会 達成度集計	152/170
		達成度平均点	89/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和3年度検討および実施事項	令和3年度総括	達成度
社会福祉学科 (学科長)	<b>基準1. 使命・目的等</b> <b>『各学科・研究科の強み、特色の明確化』</b> <b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b> 地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立。 ◎社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の3国家資格の合格率維持向上に向けた試験対策の充実を図る。	受験対策において、新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、なるべく大学で学習ができる機会を創出した。また、外部のオンライン講座や受験対策DVD等を活用し、主体的に学習ができるように取り組みを行った。 精神保健福祉士の受験対策としては、授業において課題を出し、グループ学習にて学習の徹底を図った。また、定期的な面談や全体説明などを複数回実施し、学習意欲の向上に努めた。 介護福祉士の受験指導においては、個別の勉強進度に合わせた指導計画を作成し実施した。	8
	<b>【1-3 : 教育課程への反映】</b> 各特色的教育課程への反映 新カリキュラムに沿った教育課程に対応するため、日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック研修会等において、新カリキュラムでの実習・演習に関する意見交換を行い、現状と課題の共有を行った。また、近隣の養成校との間で実習・演習の情報交換を行い、教育内容へと反映するよう努めた。	日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック研修会等において、新カリキュラムでの実習・演習に関する意見交換を行い、現状と課題の共有を行った。また、近隣の養成校との間で実習・演習の情報交換を行い、教育内容に反映するよう努めた。	10
	<b>【1-4 研究活動への反映 (含私大研究プランディング事業)】</b> 認知症カフェ等への参画は、大学で学んでいる専門知識や技術を、地域在住高齢者の生活に役立つよう創意工夫する実践機会として引き続き取り組んでいく。	昨年同様新コロナウイルスの影響で実践及び活動については一部影響を受けたものの、地域デイサービス等への運営参画及び実践に取り組み、学生の教育機会としても有効に機能した。	9
	<b>【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】</b> 九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の収束状況を慎重に考慮しつつ、新しい大学間連携事業プロジェクトとACC活動プログラムとのハイブリッド化に取り組んでいきたい。</li> </ul>	コロナ禍により、企画は全面的に中止になった。	0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉コースにおいては、長崎国際大学介護福祉養成コースとの情報交換を継続し実施。また、学生間とのオンラインによる交流会を検討し連携を活発化させる。</li> </ul>	今年度もメールによる情報交換（留学生を含む入学生の状況、実習など）を行った。学生間の交流会を春季休暇中に実施したいという希望は双方にあったが、コロナ禍による介護実習等の業務に追われ実施には至らなかった。	5
	<b>基準2. 学生</b> <b>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</b> <b>【2-1 学生の受け入れ】</b> ①社会福祉士及び精神保健福祉士の教育内容等や学科のあり方を運動させた高校生・保護者にとってわかりやすいアドミッション・ポリシーの見直しを行う。	新カリキュラム導入に伴う教育内容の見直しやコース制の撤廃などを行い、高校生や保護者に分かりやすい仕組みづくりに取り組んだが、アドミッション・ポリシーを見直す必要はなかった。	5
	②広報誌については、高校生が手に取りやすく、興味ある内容について、在校生へ感想や意見を聞き、紙面を更に充実させる。令和2年度に引き続き、ホームページ、Facebook、Twitterでそれぞれ年間100件以上更新する。また、YouTube動画も年間30本以上の制作・更新を目指す。イベントなどで高校生に学科SNSについて宣伝し、フォロワーを増やす。	大学の事情で学科報の印刷・発行が遅くなり、配布のタイミングに若干影響を及ぼした。一部の学生ではあるが、在校生の意見も聞き、今年度も学生に手に取り目を通してもらえるよう、文字数を減らす等の工夫を行った。 令和3年度におけるWebを活用した広報活動では、年度途中に担当者が減少する等もあり、ホームページ58件更新、Facebook50件更新、Instagram41件更新、Twitter39件更新、YouTube動画18件制作・更新に留まった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント等の機会も減少し、思うようにフォロワーの増加につなげることができなかつた。	8
	③「エージェンシー制度の導入」については、海外の動向やニーズ調査により、必要性があれば、またまとまった数量の入学希望者がいれば、柔軟に対応していきたい。	③「エージェント制度」は、短大部で先行導入し、すでにある程度の効果と実績が出ている（正規留学生数はR2年度25名 / R4年度は26名が入学予定）。しかし大学では導入されていないので、引き続き導入に向けて努力する	0

	④活動の推進（R2年度の志願者数52名、入学（予定）者数40名）を受けて、「志願者数」80名並びに「入学者数」60名を目指す。	④令和3年度は志願者数57名、入学予定者数39名となり、目標を達成することができなかった。（3/22）現在。	3
	<b>【2-2 学修支援】</b> 実習や演習等に各場面において、実践現場のスーパーバイザ級の講師派遣を実施し、リアリティある授業を学生に提供する。	各分野で活躍する現場職員を一日講師として招き、実践現場の状況や課題について講義を行った。特に実習前には医療機関のSWを招き、感染症対策等についても学習できる機会を設けている。  コロナ禍における影響で精神保健福祉士の医療機関実習を学内実習に切り替え、学内実習プログラムを構築した。その際、現場の実習指導者や地域の精神保健福祉機関・事業者の専門家、精神障害当事者の協力を得て、リアリティのある実践的な学習を行った。  介護では、遠隔・対面型の講義を用い実践現場の講師より、各授業内容に即した最新の現状を踏まえた講義を実施。リアリティのある授業を学生に提供できた。	10
	<b>【2-5 学修環境の整備】</b> ①実習施設、図書館等の有効活用	各コースやゼミ毎に実習設備の活用や図書館でのガイダンスを実施し、積極的な利用を促した。	8
	②介護福祉コースにおいては、専門的な技術の習得に向けて、実習室を有効活用する。	介護福祉コースにおいては、演習の内容に応じて、介護実習室・入浴実習室を適切に使用している。とくに感染症予防に配慮して、消毒などを徹底的に行っている。また、学生の実技の習熟度向上に向けて、自主学習の機会を設け、介護実習室を有効に使用している。	9
	③社会福祉コース・精神保健福祉コースにおいて、実習指導室等の実習施設の活用を通して、実習教育の向上を図る。	実習指導室をはじめ、演習室等を活用し、個別面談やグループ指導を行い、適切に実習ができるよう努めた。  精神保健福祉士の実習指導・演習において、図書館や実習指導室にある資料・テキストなどを有効に活用した学習を行った。さらに、実習指導室の職員による授業支援、学生への学習サポートやメンタルサポートも積極的に実施した。	9
	④学生に図書館をもっと気軽に利活用してもらうための方法について検討を行う。また、オンラインでの文献検索や資料収集等の方法についても図書館と連携し、学生へ周知を図り、積極的な学習へつながるよう取り組んでいく。	図書館が企画する「図書館センター」について学科学生への募集を行った。学科学生の数名が図書館センターとして登録を行い、図書館利用の促し等に関与している。文献検索や資料収集については図書館と連携し、ゼミ毎に取り組みを行っている。	8
	⑤（精保）学生が精神保健福祉士により興味が持てるよう、現場に根差した実践的な教育を行うため、病院や地域施設との関係を生かしながら学生教育を行う。  (介護) コース制廃止に伴い、学生の求める進路に応じた適切な資格取得の選択へと導くことへの支援を行う。	精神保健福祉士の実習指導や演習、学内実習において、学生が興味を持つことのできる実践的な取り組みとして、ディクションフォーラムの企画、クリニカルアートやSSTの体験などを取り入れた。  配属された学生については、個別性に応じた指導を行い、1年生に対しては介護福祉士資格についての説明等を随時行った。	9 8
	<b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b> ①各ゼミ活動において学生からの不安や不満を確認し、学科会議等を通して学生の動向を把握するよう努める。その上で対応を協議する体制づくりを行う。  ②満足度の高い学生支援を行うために、教員間の連携を一層強化する。また、極め細やかな対応・支援が求められる学生の増加が顕著であり、学科会議を中心に学修支援に必要な情報交換、連携を引き続き行う。	学生本人や父兄からの相談を受けて、個別面談等を行った。	10
	<b>基準3. 教育課程</b> 《卒業認定、教育課程、学修成果》 【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】 ①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーについて学生便覧・シラバスを通じて周知する。 新カリキュラム改正後の内容に準拠したディプロマポリシーに基づいた教育を行う。	①②週に1回の学科会議において課題のある学生についての情報交換をタイムリーに行い、教員間で共有し動向を把握することができた。4年生の就職についても内定状況などを適宜共有し、ゼミ担当教員との連携で支援が行えている。	8
		前期後期に実施されるガイダンスおよびゼミにて周知、履修指導につなげた。  新カリキュラム改正後の内容に準拠したディプロマポリシーに基づいた教育を行った。  精神保健福祉士の講義開始時においては、シラバスの説明とともに学生便覧を用いて規定の確認を行っている。資格取得に関する科目の選定などにおいては、面談を複数回実施し、個別の対応を図った。  授業時に学生へ周知を行い、新カリキュラム改正後の内容に準拠したディプロマポリシーに基づいた教育を行った。	10

	②学生便覧・シラバスにより、ガイダンス等で指導し、資格関連科目の履修の順序や履修方法について周知を図る。 新カリキュラム改正後の内容に準拠した進級規定や卒業判定基準等に基づき、教育を行う。	前期後期に実施されるガイダンスを通じて全体への周知を図り、加えて各資格については、コースおよび各実習等に関するガイダンス内において履修指導を実施した。	10
	③-1 学生便覧・シラバス等での周知により、資格関連科目の履修の順序や履修方法について厳正な適用を徹底する。 ③-2 複数担当者科目では共通の評価項目の設定および評価会議等を実施する。	③-1 前期後期に実施されるガイダンス、ゼミ、コースおよび各実習等に関するガイダンスを通じて全体への周知を図った ③-2 該当科目担当者において評価会議の実施を行った。	9
	<b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b> ①新カリキュラムを反映したカリキュラム・ポリシーについて、学生便覧を用いて周知する。	新カリキュラムを反映したカリキュラム・ポリシーについて、ガイダンスやゼミで周知に努めた。	9
	②新カリキュラムに準拠したディプロマ・ポリシーについて、科目系統図を用いて周知する。	カリキュラムに準拠したディプロマ・ポリシーについて、ガイダンスやゼミにて周知に努めた。	9
	③学年進行に従って、新カリキュラムと旧カリキュラムを並行して運用しながら、カリキュラム・ポリシーに沿った教育を実践する。 新カリキュラムに根差した教育課程に基づいた教育実践を行う。	新カリキュラムと旧カリキュラムの並行による教育実践に取り組んだ。 精神保健福祉士の科目系統図を確認しながら、カリキュラム・ポリシーなどの規定に沿って授業を展開した。また、非常勤講師との連携も積極的に図り、教育の質の向上に努めた。	10
	<b>(介護)</b> 適性な新カリキュラムの運用を行う。	新カリキュラム導入2年目において、科目間の連動・連携を図るために、非常勤職員を含め全体の内容について、確認・協議を行っている。	9
	④コロナの感染状況を見ながら、ACC活動の復活、高大協働授業プログラムの拡充、さらに「SAGA まちづくり留学生市民フォーラムプロジェクト」の実現に取り組んでいきたい。	④コロナ禍により、企画は全面的に中止となった。	0
	<b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b> ①カリキュラムチェックリストおよび学生の自己評価データの活用	学生による自己評価の適正な実施に向けて、ガイダンス・ゼミにて周知し、データの蓄積に努めた。	6
	②令和3年度は佐賀県介護福祉士協会に意見を求める。また、教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックについては、大学全体の授業評価に加えて、福祉士養成を可能にする点検及び評価の方法を検討する。	本年度、佐賀県介護福祉士会より意見聴取。方針において、一貫性・整合性があり妥当であると返答あり。学位授与の時に、「社会福祉専門職としての倫理」に関する内容の加筆について助言を得た。また、教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックについては、大学全体の授業評価に加えて、福祉士養成を可能にする点検及び評価の方法の検討についても、会と協力し継続検討することの承認を得た。	9
		当該委員会 達成度集計	208/280
		達成度平均点	74/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
スポーツ健 康福祉学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>《各学科・研究科の強み、特色の明確化》</b>  <b>【1-2 学科のブランドの明確化および変化への対応】</b>          ◎地域支援活動の推進による学科のブランド力強化（継続）  <b>【到達目標】</b>          • 地域スポーツ実践演習等の取り組みの強化継続 (QSP ウォーキングブレイブ (神埼市))</p> <p><b>【1-4 研究活動への反映 (含私大研究プランディング事業)】</b>          各特色的研究活動への反映          ○外部資金獲得の推進（継続）  <b>【到達目標】</b>          • 地域連携活動 1件          • 科学研究費 7件応募 (学科 100.0%)</p> <p><b>基準2. 学生</b>  <b>《学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</b>  <b>【2-1 学生の受け入れ】</b>          ○アドミッション・ポリシーの再検討（継続）  <b>【到達目標】</b>          • 社福士受験資格取得継続検討</p> <p>◎入学定員（50名）確保にむけた入試内容及び広報活動の検討・推進（継続）  <b>【到達目標】</b>          • 効果的な広報活動の検討と実施 (OCへの生徒参加80名を目指す。)          • 3年次編入学制度導入の検討</p> <p><b>【2-2 学生支援】</b>          ○SA導入の検討（継続）  <b>【到達目標】</b>          • 学科内FD研修の開催          (科目内における指導補助としての導入可能性を検討)</p> <p><b>基準3. 教育課程</b>  <b>《卒業認定、教育課程、学修成果》</b>  <b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b>          ○ディプロマ・ポリシーの再検討（継続）  <b>【到達目標】</b>          • 社福士受験資格取得継続検討</p>	<p>◎神埼市の元気かんざき市民交流祭実行委員として参画し準備も進めていたが、コロナの影響で中止となった。          佐賀県 SSP 構想および佐賀スポーツクラブ（バルーナーズ）との事業連携協定を締結し、まずはジュニア層のサポートをスタートさせた。</p> <p>○外部資金獲得として、神埼市より「元気かんざき健康推進事業」を継続受託した。また科学研究費の応募は、専任7名から6件（継続1件、新規5件）85.7%であった。</p> <p>◎大学院スポーツ科学専攻修士課程設置および専修免許状取得のための認可申請に伴う作業を行い、提出することができた。</p> <p>○トレーナー (JATI) 資格取得が可能になったことで、社福士受験資格取得を取り止め、競技スポーツを支援する人材育成を新たな柱に設定したことによりアドミッション・ポリシーに反映させた。</p> <p>◎入学者は49名（98.0%）である（5名辞退）。OCと大学見学会では、コロナ禍でも昨年度の経験を生かしながら実施した。来学参加者は昨年度を上回る生徒65名、同伴者52名、2名の生徒に対しては遠隔（リモート）対応を行った。高校内ガイダンスの依頼を積極的に活用、50校の依頼に対し30校（35校から5校が中止）で実施した。長崎県による募集活動の強化を継続中であるがコロナ禍で訪問が難しかった。なお、広報活動として、SNSを活用した動画配信を積極的に行なった。          3年次編入制度については、次年度から実施するための告知を開始した。</p> <p>○優秀な学生に学科イベント等に参画してもらい、よりきめ細かい指導の実現を図る取り組みを試行しているが、制度設定までには至っていない。</p> <p>○社福士受験資格取得の取り止めにより、ディプロマ・ポリシー変更も行った。</p>	10 8 10 10 8 8 6 10

	<p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>◎新たな魅力ある学部・学科等の検討（継続）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取得資格・カリキュラムの見直し</li> <li>・社福士受験資格取得継続検討</li> <li>・カリキュラム・ポリシーの再検討</li> </ul> <p>○フィットネス／ウェルネス・スポーツにおける選択科目としての運営方法の検討</p> <p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>○外部関係機関による第三者評価導入の検討・実施（継続）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価者の検討と実施に向けた準備</li> <li>・学生懇談会の継続</li> </ul>	<p>◎社福士受験資格取得を取り止めたことにより、人材育成のあり方を再検討し、新たに3つの柱を設定した。これに伴い履修モデルも見直し、変更部分をアドミッション・ポリシーへ反映させた。</p> <p>リメディアル教育として新たに「数学」を導入し、新規科目であるデータサイエンスの学びを補完する位置づけとして実施することができた。</p> <p>なお、今年度の教員採用試験において、卒業生4名（中学校1名、特別支援学校1名、小学校2名）の合格者を輩出することができた。</p> <p>○選択科目としての開講方法として、新たな時間割設定と教員配置を整備した。なお、小城キャンパスでの実施方法について検討し決定した。</p> <p>○実習生受け入れ施設から実習巡回時に学科に対する印象や教育内容についての意見を伺っているが、関連機関を選定し会議体での実施には至っていない。</p> <p>学生懇談会は、前後期の2回実施し、学生側の思いの把握と、出された意見に対する検討結果を開示する流れが確立できた。</p>	<p>10</p> <p>9</p> <p>7</p>
		達成度集計	88/100
		達成度平均点	88/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
リハビリテーション学科 (学科長)	<p><b>1. 使命・目的等</b></p> <p>◎地域社会との連携強化</p> <p>○地域を基盤する教育機関としてのブランド力の確立（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の自治体や医療機関等と連携して研究・教育・広報活動に取り組む（継続）。</li> </ul> <p><b>基準2. 学生</b></p> <p>《学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>◎学生受け入れ、学生の支援、学修環境の整備、学生からの意見への対応（継続）。</p> <p>○オープンキャンパスの充実をはかり、リハビリテーション学科を広報する。</p> <p>○学科独自の宣传媒体、高校訪問、在学生を通じた母校への広報活動の実施（継続）。</p> <p>○各イベントを積極的に活用し、職業の知名度アップにつなげていく（継続）。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員確保：理学 40 名、作業 40 名。</li> <li>・ 志願者数：理学 200 名、作業 150 名。</li> <li>・ OC 動員数：理学 250 名、作業 200 名。</li> </ul> <p>◎学部独自の就職説明会の実施（継続）。</p> <p><b>基準3. 教育課程</b></p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>◎学科 FD を開催し、講義や学生対応について意見交換と情報共有を図る。</p> <p>○新指定規則、新カリキュラムへの適応（新規）。</p> <p>○授業評価アンケートに基づく授業方法の工夫・開発と効果的な実施（継続）。</p> <p>○学修成果の点検・評価結果のフィードバック（継続）。</p> <p>○「臨床講師制度」等、実習施設との連携強化（継続）。</p> <p>○学修環境改善のため実習施設の点検・開拓（継続）。</p> <p>◎卒業率、留年率の改善（継続）。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業率：理学、作業共に 80% 以上。</li> <li>・ 国家試験合格率 100% の達成。</li> <li>・ 就職率 100% の達成。</li> </ul> <p><b>基準4. 教員・職員</b></p>	<p><b>1. 使命・目的等</b></p> <p>◎地域社会との連携強化</p> <p>○地域を基盤する教育機関としてのブランド力の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ QSP 事業医療・保健・福祉分野の主担当として、12月 5 日に開催された QSP ウォーキングイベントに参加し約 234 名の参加者に対して健康指導を実施した。</li> <li>・ （株）MIZ と協働で佐賀県在住の高齢者 85 名に健康指導を実施した。また、分析結果を佐賀市民文化会館での報告会やラジオで報告した。</li> <li>・ 自治体と協力して地域の高齢者の生活支援に携わった（佐賀市：認知症初期集中支援チーム委員、地域ケア會議アドバイザー、江北町、鹿島市：認知症カフェ、小城市：認知症カフェ、認知症評価事業、高齢者事業計画の政策立案、神埼市：地域ケア推進委員、鳥栖地区広域市町村圏組合：認知症の人の家族介護者支援、吉野ヶ里町：吉野ヶ里町地域包括支援センター運営委員、吉野ヶ里町ふれあいネットワーク推進協議会委員）。</li> <li>・ 神埼警察署、吉野ヶ里社協との三者地域連携推進包括支援センター運営委員、同ふれあいネットワーク推進委員として三田川中学校、東脊振中学校で認知症サポーター養成講座、認知症声掛け訓練を実施した。</li> <li>・ 吉野ヶ里町社協と協力して地域の高齢者に介護予防支援の企画運営に携わった。</li> </ul> <p><b>基準2. 学生</b></p> <p>◎学生受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校訪問や在学生の出身校への広報活動、卒業生から高校教員への DM による広報活動を実施した（継続）。</li> <li>・ R04 年度の入学予想数は、理学 41／40 名 (102%)、作業 18／40 名 (45%)、学科 59／80 名 (定員充足率 73%) である（2022. 04. 12 現在）。</li> </ul> <p>◎学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策を行いつながら学部独自の就職説明会を実施した（継続）。</li> </ul> <p><b>基準3. 教育課程</b></p> <p>◎学科 FD を開催し、講義方法や学生対応について意見交換や情報共有を図った。</p> <p>○新指定規則、新カリキュラムに対応するために備品を揃え、科目担当などの見直しを図ることができた。</p> <p>○単位認定基準、進級基準、卒業認定基準周知をはかり留年と退学の抑制を図った。</p> <p>○遠隔授業に対応するために学科 FD 等で授業方法の工夫に取り組んだ。</p> <p>○卒業率、留年率の改善に向けて毎週木曜日に教員間で意見交換と情報共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 57 回国家試験合格率（新卒）は PT 88.2 %、OT 70.4 % であった。</li> <li>・ 就職率は 100 % を継続できた。</li> </ul> <p><b>基準4. 教員・職員</b></p>	10 7 8 7
	<b>基準4. 教員・職員</b>	<b>基準4. 教員・職員</b>	

	<p>《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》</p> <p>◎コロナ対応に取り組みながら教育プログラムを止めないようにマネジメントする。</p> <p>◎研究活動の活性化(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携に寄与する研究の実施と充実(継続)。</li> <li>・外部資金応募数・採択数の増加(継続)。</li> <li>・地域の自治体や医療機関との共同研究の推進(継続)。</li> </ul> <p>◎自己点検・評価システムの履行(継続)。</p> <p>○教育・研究経費の点検と節約の実施(継続)。</p> <p>○新指定規則に対応した教育備品の点検・整備(継続)。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究の検討と継続</li> <li>・外部資金獲得率の向上</li> <li>・学部教員配置の適正化</li> </ul> <p>5. その他</p> <p>◎同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会との連携を図り、卒業生の活動を支援する(継続)。</li> </ul>	<p>◎教員配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法学専攻の教員3名が退職し、補充は2名であった。2019年から毎年1名ずつ、教員数が減少している。</li> </ul> <p>◎研究活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の影響を受けつつも、引き続き地域と連携をしながら地域課題の解決に寄与する研究活動に取り組むことができた。</li> <li>・5年連続で科研費への応募率は増加し、令和3年度は82.4%であった。申請数と採択数の増加を図るために引き続き学科で研究活動に取り組んでいく。</li> <li>・地域の自治体や医療機関との共同研究を実施することができた。</li> </ul> <p>○教育・研究経費の点検と節約の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育や研究に関わる費用を見直したが、コロナ対応に必要な支出があつたことから通常時と比較できない。</li> </ul> <p>○新指定規則への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新指定規則に対応できるように教育備品を揃えることができた。また経年劣化により破損した施設・教育備品の修理や買い替えを少しずつ進めることができた。</li> </ul> <p>5. その他</p> <p>◎同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策のため十分に同窓会活動を行うことができなかつた。</li> <li>・リモート会議で頻回により活発な運営会議を開催することができた。</li> </ul>	10
		当該委員会 達成度集計	42/50
		達成度平均点	84/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
子ども学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>『各学科・研究科の強み、特色の明確化』</b>  <b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b>          地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立          ・「地域生活支援」の観点を有した、学科の特色の創出とそのブランド化  <b>【到達目標】</b>          ○学科における「地域生活支援」の観点、方向性について、引き続き検討を行う。併せて学科ブランドを明確化する作業を進める。</p> <p><b>中期目標1－3：教育課程への反映</b>  <b>中期計画：各特色の教育課程への反映</b>  <b>計画事項：確立するブランドを反映した教育課程の考案、実施</b>  <b>【到達目標】</b>          ○学科ブランドを反映した教育課程を再考し、学生にとって分かりやすい教育体制の実施にむけた内容の継続検討を図る。</p> <p><b>中期目標1－4：研究活動への反映</b>  <b>中期計画：各特色の研究活動への反映</b>  <b>計画事項：学科のブランドに反映した研究テーマの考案、実施</b>  <b>【到達目標】</b>          ○子ども学科のブランドに反映した研究テーマを考案し、共同研究を推進するための研修実施を検討する。          ○研究活動の促進と充実のため、外部資金獲得の推進を図る。</p> <p><b>中期目標1－5：九州西部地域大学・短期大学連携事業</b>  <b>中期計画：九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応</b>  <b>計画事項：九州西部地域大学・短期大学連携事業への積極的な取り組み</b>  <b>【到達目標】</b>          ○九州西部地域大学・短期大学連携事業の取り組みを継続検討し、実行する。</p> <p><b>基準2：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応</b>  <b>中期目標2－1：学生の受入れ</b>  <b>中期計画①：教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知</b>  <b>計画事項：教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの検討</b>  <b>【到達目標】</b>          ○教育目的を踏まえたアドミッションポリシーの再考を継続して行う。</p> <p><b>中期計画②：アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証</b>  <b>計画事項：入学者受け入れと入学後の学修状況の関係について検討する。</b></p>	<p>○学科における「地域生活支援」の観点、方向性に関する検討及び学科ブランドを明確化する作業を学科将来構想検討会を中心に進めることができた。</p> <p>○学科ブランドを反映した教育課程を再考し、学生にとって分かりやすい教育体制の実施にむけた内容の検討を図った。</p> <p>○子ども学科のブランドに反映した研究課題を考案し、共同研究の推進と研修を実施した。          ○外部資金獲得の推進について、学科内での具体的な検討は十分でなかった。</p> <p>○九州西部地域大学・短期大学連携事業の取り組みとして、「健康・医療・福祉」部門の取り組みである「QSP 健康ウォーキングin佐賀」へ参加し、伝承遊びのブースを企画実施した。</p> <p>○教育目的を踏まえたアドミッションポリシーの再考を継続して行った。</p>	9 10 6 8 10

<p><b>【到達目標】</b></p> <p>○アドミッションポリシーに沿った入学者受入れの関係を継続検討し、入学後の学修状況との関係を分析する。</p> <p><b>中期計画③：入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</b></p> <p><b>計画事項：志願者増に向けた学生募集活動の強化</b></p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○学生募集活動について、引き続き、他大学の情報収集を積極的に行い、その上で過去5年間の取り組み及び令和2年度入試傾向を検証し、入学定員に沿った学生受け入れ数の維持を図る。</p>	<p>○アドミッションポリシーに沿った入学者受入れの関係を継続検討し、入学後の学修状況との関係のデータ分析を行つた。</p>	10
<p><b>中期目標2－2：学修支援</b></p> <p><b>中期計画②：TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実</b></p> <p><b>計画事項：学修実態の的確な把握と必要な支援の充実</b></p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○学生の学修の実態について、学期末に把握し、指導に当たる。その際、実態把握や指導に関する方法や時期などの検討を十分に行い、学科教員間の共有を図る。</p>	<p>○学生募集活動について、昨年度に続き、他大学の情報収集を行い、その上で過去10年間の取り組み及び令和2年度入試傾向を検証し、入学定員に沿った学生受け入れ数の維持を図った。</p>	9
<p><b>中期目標2－5：学修環境の整備</b></p> <p><b>中期計画②：実習施設、図書館等の有効活用</b></p> <p><b>計画事項：子育て支援室、保育演習室、図書館等の活用状況の把握と有効活用の推進</b></p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○子育て支援室、保育演習室、図書館等の活用状況の把握と有効活用に関する継続検討を行う。</p>	<p>○学生の学修の実態について、学科教員間の共有を図りつつ、実態把握や指導に関する方法の検討を行い、学期末にその指導に当たった。</p>	7
<p><b>中期計画④：授業を行う学生数の適切な管理</b></p> <p><b>計画事項：授業を行う学生数の適正化に関する検討と実施</b></p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○授業を行う学生数の適正化について早期から十分に検討を行う。</p>	<p>○子育て支援室、保育演習室、図書館等の活用状況を把握し、有効活用に関する継続検討を行った。</p>	9
<p><b>中期目標2－6：学生の意見・要望への対応</b></p> <p><b>中期計画①：学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</b></p> <p><b>計画事項：学生の意見の掌握と学修支援への活用</b></p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○全学的に行う学生への意識調査の分析を有効活用しつつ、学修支援に関する学生の意見を掌握する方法を再検討する。そのうえで学修支援への活用を図る。</p>	<p>○コロナ禍において、授業を行う学生数の適正化について、講義・演習科目、受講者数及び授業内容を鑑み、検討を重ねつつ、授業を実施した。</p>	7
<p><b>基準3：卒業認定、教育課程、学修成果</b></p> <p><b>中期目標3－1：単位認定、卒業認定、修了認定</b></p> <p><b>中期計画①：教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</b></p> <p><b>計画事項：教育課程の改変に伴うディプロマ・ポリシーの再考と周知</b></p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○教育課程の改変に伴うディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性の検証を引き続き行う。</p>	<p>○全学的に行う学生への意識調査の分析を活用し、学修支援に関する学生の意見を掌握する方法の検討及び学修支援への活用を図る試みを行ったが、十分ではなかった。</p>	10
<p><b>中期計画②：ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準等の策定と周知</b></p> <p><b>計画事項：単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基準の周知</b></p>	<p>○教育課程の改変に伴うディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、協議し検証を引き続き行った。</p>	10

	<p><b>【到達目標】</b></p> <p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定の基準周知と適用について、引き続き検証を行う。</p> <p><b>中期計画③：単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用</b></p> <p><b>計画事項：</b>単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基準の周知</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基準の周知と厳正な適用について、引き続き検証を行う。</p> <p><b>中期目標3－2：教育課程及び教授方法</b></p> <p><b>中期計画①：カリキュラム・ポリシーの策定と周知</b></p> <p><b>計画事項：</b>教育課程の改変に伴うカリキュラム・ポリシーの再考と周知</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○教育課程改変に伴うカリキュラム・ポリシーの再考を継続して行う。</p> <p><b>中期計画②：カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性</b></p> <p><b>計画事項：</b>カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性の検証と相互調整</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○教育課程の改変に伴うディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性を引き続き検証し、調整を図る。</p> <p><b>中期計画③：カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</b></p> <p><b>計画事項：</b>新しいカリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○新しいカリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の検証を引き続き行う。</p> <p><b>中期計画⑤：教授方法の工夫・開発と効果的な実施</b></p> <p><b>計画事項：</b>学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施について、学科内での情報共有及び取り組みの検討を継続して行う。</p> <p><b>中期目標3－3：学修成果の点検・評価</b></p> <p><b>中期計画①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</b></p> <p><b>計画事項：</b>学修成果の点検・評価の再考と検証</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価の実態について、引き続き再考する。</p> <p><b>中期計画②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</b></p> <p><b>計画事項：</b>学修成果の点検・評価の有用な実施</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>○学修成果の点検・評価の有用な実施について、継続検討を行う。</p>	<p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定の基準策定及び周知について、検証を行った。</p> <p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定の基準策定及び周知、厳正な適用について、検証を行った。</p> <p>○教育課程改変に伴うカリキュラム・ポリシーの再考を継続して行った。</p> <p>○教育課程の改変に伴うディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、継続検討を行った。</p> <p>○新しいカリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の在り方を、学生への資格免許取得と進路希望調査等の分析結果を用いて検証を行った。</p> <p>○学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施について、一部の科目に関する学科教員間による検討を行った。次年度においても効果的な実施にむけた学科内での情報共有及び取り組みの検討を行う。</p> <p>○学修成果の点検・評価の実態把握を行ったが、学科内での共有及び検討には至らなかった。</p> <p>○学修成果の点検・評価の有用な実施について継続検討を行ったが、学科内での協議が十分でなかった。</p>	10 10 10 10 10 8 7 7
		当該委員会 達成度集計	177/200
		達成度平均点	89/100

西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>  <b>『各学科・研究科の強み、特色の明確化』</b>  <b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b>          地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立          学部、学科のブランド構築が、学生に浸透しているかを評価するために、学修成果の自己評価を確實に行わせる。</p> <p>学科FDを、前期1回、後期1回実施し、学科の特色についてより洗練させるための討議を、SWOT分析を用いて学科教員全員で行う。</p> <p>日本箱庭療法学会を10月9・10日に開催する。</p> <p>発達臨床支援セミナーを令和3年度の学科行事として実施する。</p>	<p>21年前期の「学修成果の自己評価」の回答率は92.4%であった。学年別では1年生が96.0%、2年生が100%、3年生が97.6%、4年生が76.60%であった。</p> <p>2021年9月2日に前期学科FDを実施。学科の特色について、現在の3つのポリシーを学科教員に共有、SWOT分析を各教員で実施。2022年3月7日に後期の学科FDを実施予定。今後の学科の特色について、各自作成したSWOT分析の結果から検討を行う。</p> <p>日本箱庭療法学会第34回大会が、10月9日、10日にオンライン開催された。全国から約600名が参加され、大学の広報としての機能を大きく果たした。</p> <p>発達臨床支援セミナーを、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2021年12月3日に実施した。佐賀県及び福岡県から30名の参加があった。</p>	10
心理カウンセリング学科(学科長)	<p><b>【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】</b>          九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応  ○連携事業への積極的な協力          今後も学科の特色を活かしながら地域連携事業への協力について検討を行う。</p> <p><b>基準2. 学生</b>  <b>『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</b></p> <p><b>【2-1 学生の受入れ】</b></p> <p>①教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知          ・時代の流れ、高校生の志向などを鑑みながら、アドミッション・ポリシーが適切であるか、検討を重ね続ける。</p> <p>②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証          ◎アドミッション・ポリシーに基づく入学者受け入れ方法の再考          ・令和3年度においても、引き続き、アドミッション・ポリシーに基づく入学者受け入れ方法の再考していく。同時に、学生の志願状況も見ながら、アドミッション・ポリシーに合った選抜方法となるよう、今後も継続して、検討を重ねる。</p> <p>③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持          ◎入学定員確保に向けた広報活動の充実と強化          HP、SNS等による情報発信の強化          ・HP、SNSによる情報発信の強化          ・動画配信ツールを用いた情報発信の強化          ・高校訪問を積極的に行う</p> <p><b>【2-2 学修支援】</b>  ①TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p>	<p>12月5日に行われた「QSP健康ウォーク2021in佐賀」に学科ブースを出展した。イベント総勢では230名を越える参加を得た。</p> <p>心理カウンセリング学科では「ストレスチェック」を実施し、ストレス対処法について伝えるとともに、佐賀市が作成した地域の各種相談機関のパンフレットを配布した。</p> <p>運営には学部生や大学院生、高校生ボランティアも携わり、地域連携事業に積極的に寄与することができた。</p> <p>学科会議、またR4.9.2の学科FDにおいて、今後の学科運営を検討する中でアドミッション・ポリシーについても検討を加えた。</p> <p>◎アドミッション・ポリシーに基づく入学者受け入れ方法の再考          ・令和3年度においてアドミッション・ポリシーに基づく入学者受け入れ方法の再考を継続した。コロナ禍の中での学生の志願状況を注視しながら、アドミッション・ポリシーに合った選抜方法を再考し、実施した。</p> <p>2021年4月から2022年2月14日までに、          HP: 26件          Twitter: 38件          Instagram: 32件          の記事を掲載した。          2021年4月から2022年2月まで、高校訪問は54校、出張講義は21校実施した。</p>	8
			10

<p>○学科独自の学修支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「藝術療法Ⅰ・Ⅲ」において計99時間TAを活用し学生の学修支援を行う予定である。1年次「キャリアアップ講座Ⅰ」、2年生対象の「キャリアアップ講座Ⅱ」も開講して継続的な学修支援を行っていく。</li> </ul>	<p>「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「藝術療法」「藝術療法Ⅱ」「藝術療法Ⅲ」において、計90時間TAを活用することで、演習科目における学生の理解促進のために大学院生が補助をおこなうことで、学生の学修支援の有効な手立ての一つとなつた。 令和3年のキャリアアップ講座Ⅰは、対象学生が17名、教員3名（専任1名、特任1名、非常勤1名）で実施した。受講学生は、入学時に実施されるIRテスト（心理は国語と数学）の結果から、大学教育を円滑に受講できるように支援が必要な学生を選出した。講座の内容は、前期は国語力について、学科独自のカリキュラムを作成・実施、後期は前期内容に加え、数学的理解力を促すカリキュラムを作成・実施した。 令和3年のキャリアアップ講座Ⅱは、令和3年度新たに開講された科目であり、対象学生15名、教員2名（専任1名、特任1名）で実施した。受講学生には、最初の授業と最後の授業でアセスメントテストを実施した。講座の内容は、社会人として必要な国語力、数的理窟力を加え、進路・就職についての考え方を含めた、就職力向上のための独自カリキュラムを作成・実施した。アセスメントテストの結果、受講学生15名の内8名が得点の向上が認められた。</p>	10
<p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>図書館、臨床心理相談センター活用の推進</p> <p>臨床心理学の各分野において、幅広く図書の充実を図る。臨床心理相談センターにおいて、新型コロナ電話相談の事業を継続する。</p>	<p>図書館の蔵書の充実にむけて、和書だけではなく、洋書、DVDなどの視聴覚メディア、電子図書などの充実がなされた。 新型コロナ電話相談事業において、佐賀県及び佐賀市の広報誌、テレビ等を通じて、問い合わせや相談が入った。</p>	9
<p>③授業を行う学生数の適切な管理</p> <p>○演習、実習等における適切な学生数の管理</p> <p>充実した演習、実習になるよう人員配置に関しては継続していく。心理実習に関しては、各ゼミ担当者より履修状況を把握し実習に必要な履修について2年次、3年次の学生に周知させる。</p>	<p>学生15名に対して教員1名の配置で書く演習、実習指導が行えるよう教員配置を行った。</p>	9
<p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>○学生の学修状況及び意見、要望の把握、分析、対応</p> <p>令和3年度においても、引き続きゼミ担当教員による学修状況の個別指導を徹底し、学生の状況把握に努める。履修不良の学生等については保護者面談を積極的に行っていく。</p> <p>・学科の学生状況に応じた教育や学修支援のため、学科FD研修の機会を増やし、『学生生活実態調査』の活用も引き続き行う。</p> <p>・事務職員との連携も継続し、実態把握や対応の可視化のために、学科会議での報告を行い、議事録にて文書化する。</p>	<p>・ゼミ担当教員による学修状況の個別指導を徹底し、学生の状況把握に努めた。履修不良の学生等についてはゼミ担当教員だけでなく学科長も含めた保護者面談も積極的に行なった。 ・心身の障害により配慮要望が出ている学生について、学生支援委員・障害学生支援委員を中心に状況の聞き取りを行い学科会議で支援のあり方について検討・確認を行うとともに学科教員以外で授業担当を行っている教員へは教務課を通じ文書にて配慮依頼を行なった。 ・学科FDでは教務関係事項について教員の共通理解を測るために検討を行い、学科会議において、『学生生活実態調査』の分析をもとに検討を行なった。遠隔授業における授業の工夫の程度が学生の満足度に影響していることや、教員の細やかな指導への満足度が後輩へ本学を勧めるかの項目に影響していることを確認し、授業内容の向上や細やかな個別対応を行うことを学科教員全体で確認した。 ・事務職員と連携し、実態把握や対応の可視化のために、学生対応について学科会議での報告を行い、議事録にて文書化を行なった。</p>	9
<p><b>基準3. 教育課程</b></p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p><b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b></p> <p>①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</p> <p>②教育課程改変に伴うディプロマ・ポリシーの再考と検証</p> <p>前期、後期にFD研修会などを通して、継続した検証を実施する</p> <p>③ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知</p>	<p>博士後期課程設置に向けて、学部との一連の教育課程の再考と検討を行なった。また、学科FD検討会を通じて、ディプロマ・ポリシーの議論を深め、再検討を行なった。現状維持として進めることに至った。</p>	9

	<p>◎進級基準、実習と実習内規等の諸基準に関する検討と周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級基準の導入について、学科のディプロマ・ポリシーに基づき、引き続き検討を行う。</li> </ul> <p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>①カリキュラム・ポリシーの策定と周知</p> <p>②教育課程改変に伴うカリキュラム・ポリシーの再考と周知</p> <p>高校ガイダンスや出張講義等だけではなく、SNSやホームページ等のメディアを用いて、表現療法を学べる大学であることを周知する。</p> <p>③カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性</p> <p>④カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性の検証をFD研修会等を通して継続して行う。</li> </ul> <p>⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>⑥学生の実態に応じた教授方法の開発と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業の導入により学生の状況が把握しにくくなった面もあるので、より一層学生の状態把握に努め、個々の学生に応じた対応を学科全体で共有することに務める。</li> </ul> <p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>○学修到達目標の評価指標の再考と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級基準の導入について、学科のディプロマ・ポリシーに基づき、引き続き検討を行う。</li> </ul> <p>②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>○学修成果の点検、評価に関する、学生・教員双方のフィードバック体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ループリックの説明と評価を学生に実施、資料収集を続ける。全学年に評価実施を積極的に求め、3つのポリシーと学修成果の評価方法の整合性について、検討を行う。</li> <li>・学修成果の点検、評価に関する、学生・教員双方のフィードバック体制を、学科教務委員で構築し、前期1回、後期1回、1年生を対象にプレ実施を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級基準は、3月の学科会議で、現行の進級基準に基づき卒業研究ゼミへの配属の可否を実施することで合意された。</li> <li>・学生には、前期・後期ガイダンス時に「心理実習」「卒業研究」に加え「改正履修登録単位上限規程」の周知を図った。</li> <li>・心理実習内規の適切性と改訂の必要性については、今年度の4年生が新カリキュラム初の受講生であった。彼らの実習評価や受講態度を学科で検討を行う予定（2022年3月）</li> </ul> <p>学会や研究会、研修会、講演会などが開催された際、SNSやホームページ等のメディアを用いて広報することができた。また、佐賀新聞による学生への取材についても、ホームページにて情報発信することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス作成においてディプロマ・ポリシーを用いた評価について周知するようになつたが、2つのポリシーに関しての整合性まではいかなかつた。 今年度はFD研修会を開くことはできなかつた。</li> </ul> <p>・毎月の学科会議において、学生の動向について情報共有に努めた。精神的不調を訴える学生について、保護者や主治医に働きかけ状況の改善に努め、学科内でも共有した。</p> <p>公認心理師受験資格取得できるカリキュラムを設置して初めての卒業生を輩出した。彼らの成績や資質を検討し、その課題を整理し、令和4年度に進級や資格取得基準の検討を、学科で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の後期「あすなろうⅠ」授業において「学修成果の自己評価」におけるループリックの説明と評価の説明を行つた。</li> <li>・学生が行った学修成果の自己評価に対するフィードバックを、学科の教務委員が前期に1回プレ実施した。後期分は3月末に実施する予定である。</li> </ul>	9 9 6 9 8 10
		当該委員会 達成度集計	143/160
		達成度平均点	89/100

## 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
看護学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b></p> <p>『各学科・研究科の強み、特色の明確化』</p> <p>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</p> <p>①看護学科のカリキュラムの特徴・スキルラボ・シミュレーションによる教育および ICT 教育の推進等の内容・教授方法とその学修成果を表現し、情報発信する。</p> <p>②第5次改正カリキュラムと旧カリキュラムを並行実施するために、より効率的なカリキュラム遂行を検討し、改正の申請を行う。</p> <p>③遠隔授業の継続における Teams 活用による情報通信技術のスキルを学生・教員ともに向上を目指し、授業及び実習環境の充実を図る。</p> <p>④令和4年度大学院開設に向け、文科省申請に伴い、地域近隣の看護師・保健師・看護教育者・学生へ広報活動および受験生の募集の準備を行う。</p> <p>○SWOT 分析の継続と課題となった項目に対し、教員および委員会が年度の活動目標に配慮して盛り込むなどその対策と実施主体の具体化を行う。</p> <p>①各委員会及び教職員の年度目標・行動目標に上記の内容を具体化し、組織全体で実施に向け取り組む。</p> <p>②臨地実習指導の強化を文部科学省の「実習指導ガイドライン」にそって進め、実習施設との連携・理解を深め、指導体制の調整を図る。</p> <p>③科学研究費等外部資金の獲得の目標値80%以上を目指す。</p> <p>④令和3年度も継続して、地域看護研究研修センターの活動を継続する。教員の学外での社会貢献をとりまとめ、活動報告書の作成を検討する。</p> <p>⑤佐賀県看護協会及び佐賀県内看護教育機関及び実習病院との連携を教育研究活動及び社会貢献上の関係を持続させる。</p> <p><b>【1-4 研究活動への反映】</b></p> <p>○研究成果を関係学会での学会発表および論文投稿を目指し、看護学部紀要の投稿を、各領域から1篇以上とし、さらに充実を図る。</p> <p>○研究力の向上を図る FD 研修等を行うとともに科研費助成獲得に向け、各教員が個人または共同で計画を検討し申請する。</p> <p><b>基準2. 学生</b></p> <p>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b></p> <p>①入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努める。</p> <p>②オープンキャンパスへ学生参加を計画し、入学者のニーズに対応する。</p>	<p><b>基準1. 使命・目的等</b></p> <p>『各学科・研究科の強み、特色の明確化』</p> <p>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</p> <p>①看護学科のカリキュラムの特徴・スキルラボ・シミュレーションによる教育および ICT 教育の推進等の内容・教授方法とその学修成果を表現し、オーブンキャンパス・高校訪問、ホームページなどで情報発信してきた。</p> <p>②令和3年度も継続して、地域看護研究研修センターの活動を継続した。</p> <p>○各先生方の外部での活動等の取り纏めとして、佐賀県看護協会及び看護学部公開講座等の企画運営を行った。</p> <p>→令和3年9月に、本学の特徴を活かした第5次改正カリキュラム案を文科省・厚労省へ提出し、承認された。</p> <p>○SWOT 分析の継続と課題となった項目に対し、教員および委員会が年度の活動目標に配慮して盛り込むなどその対策と実施主体の具体化を行った。</p> <p>○各委員会及び教職員の年度目標・行動目標に上記の内容を具体化し、組織全体で実施に向け取り組んだ。</p> <p>○臨地実習指導の強化を文部科学省の「実習指導ガイドライン」にそって進め、実習施設との連携・理解を深め、指導体制の調整を図った。</p> <p>○佐賀県看護協会及び佐賀県内看護教育機関との連携を継続させ、看護学部の知名度を高めるとともに、各機関との連携を強化した。</p> <p>○地域との連携・大学院周知に向け、佐賀県の地域の病院・教育機関の対象に広報活動を行った。</p> <p>○大学院修士課程設置に向け申請手続きを行い、その結果、文科省より認可を受け、令和4年度より開設が決定した。</p> <p>○大学院入学定員5名の充足に向け、遠隔授業等の教育方法および大学院での学修についての公開講座を地域看護研究研修センターの事業として行い、入学生の確保につなげた。また、社会人入学生に関して、夜間開講制の説明など行った。</p> <p>○第5次改正カリキュラムと旧カリキュラムを並行実施するに、より効率的なカリキュラム運用を、教務委員会で検討した。</p> <p><b>【1-4 研究活動への反映】</b></p> <p>○研究成果を関係学会での学会発表および論文投稿を目指し、各自、活動している。各領域から1篇以上の目標は達成できなかったが、原著1篇、研究報告2編を西九州大学機関リポジトリに搭載できた。</p> <p>○科研費助成獲得に向け、各教員が個人または共同で計画を検討し申請する目標値を80%としていたが、50%にとどまった。</p> <p><b>基準2. 学生</b></p> <p>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b></p> <p>①入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努めた。</p> <p>○オープンキャンパスへ学生参加を計画し、入学者のニーズに対応した。</p>	8
看護学科 (学科長)	<p><b>基準2. 学生</b></p> <p>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b></p> <p>①入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努めた。</p> <p>○オープンキャンパスへ学生参加を計画し、入学者のニーズに対応した。</p>	<p><b>基準2. 学生</b></p> <p>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b></p> <p>①入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努めた。</p> <p>○オープンキャンパスへ学生参加を計画し、入学者のニーズに対応した。</p>	7
看護学科 (学科長)	<p><b>基準2. 学生</b></p> <p>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b></p> <p>①入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努めた。</p> <p>○オープンキャンパスへ学生参加を計画し、入学者のニーズに対応した。</p>	<p><b>基準2. 学生</b></p> <p>『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-1 学生の受け入れ】</b></p> <p>①入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努めた。</p> <p>○オープンキャンパスへ学生参加を計画し、入学者のニーズに対応した。</p>	10

<p>②保護者へ学生の大学での学びを理解していただき、大学へ関心を寄せていただくために、看護学部の活動を紹介するパンフレット「学部通信」を作成し、情報発信する。</p> <p>③入試広報委員のほか、オープンキャンパス担当教員を4名配置し、ホームページ等の広報に動画やブログを含むSNS等の工夫を凝らし、受験生や保護者等のステークホルダーに対し、情報発信し、本学をPRし、入学生の確保に向け、広報活動を強化する。</p> <p>◎令和4年度学生募集は、福岡県に新設大学（看護学科定員80名）の開設予定を含め競合校が増えるため、九州全域の学生確保がさらに厳しくなる。本学部の教育課程の充実と小城キャンパスのメリットを生かした学生募集について、教員の智慧を最大限に生かした発想を実現化する。</p> <p>①佐賀県内の進学塾への情報発信、広報活動をすすめ周知を図る。</p> <p>○一般入試内容として2科目選択による見直しの結果を確認し、合否判定の基準を継続して検討する。</p> <p>○看護学科特待生の1年間授業料免除の制度の見直しの検証を継続する。</p>	<p>○入試広報委員のほか、オープンキャンパス担当教員を4名配置し、ホームページ等の広報に動画やブログを含むSNS等の工夫を凝らし、受験生や保護者等のステークホルダーに対し、情報発信し、本学をPRし、入学生の確保に向け広報活動を強化した。大学全体・学部で広報誌を発行した。</p> <p>◎令和4年度学生募集は、福岡県に新設大学（看護学科定員80名）の開設予定を含め競合校が増えるため、九州全域の学生確保がさらに厳しくなる。本学部の教育課程の充実と小城キャンパスのメリットを生かした学生募集について、教員の智慧を最大限に生かした発想を実現化した。</p> <p>○一般入試内容として2科目選択による見直しの結果を確認し、合否判定の基準を継続して検討した結果、大学入学共通テストの受験者が増加した。</p>
<p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>◎臨地実習施設は、佐賀県及び福岡県・長崎県と県域をまたぐ広範囲にわたっている。また、COVID-19の関係から、学生の受け入れ人数の制限を受けていたため、実習指導に当たる専任教員のみでは対応できない。非常勤実習助手の協力を得て、指導体制を整備・強化し、完成年度を乗り越える必要がある。</p> <p>①実習施設と大学を結ぶ遠隔授業の方法を実習に取り入れ、実習内容のさらなる充実と実習施設との連携協働の強化を図る。</p> <p>②大学に近い実習施設の開拓を行い、実習施設の拡充を図り、学生・教員の負担を軽くするとともに、組織の協力体制を強化する。</p> <p>○遠隔授業の継続および臨地実習が代替として学内実習に変更となることもあるため、遠隔授業等のICT教育による設備を整備するとともに教員のスキルを強化し、学修環境を整備する。</p> <p>また、感染対策による安全な学修環境と学生の慎重な行動を継続する指導を行い、さらなる感染予防対策の徹底を継続する。</p> <p>○卒業後に卒業生を臨地実習施設に送ることができ、実習病院も大学生の実習指導のあり方が理解できてくれれば、徐々に大学の専任教員の実習指導に関わる時間は、削減できる。実習指導時間の削減のために、どこにポイントを置いて実習指導を行っていくかなどの課題を検討する。</p> <p>◎令和3年度、1期生の看護師国家試験・保健師国家試験は100%合格を目指す。その理由は、就職率を100%達成するためには、看護師・保健師の免許を獲得していることが条件となる。加えて、入学生の確保にもつながる。そのため、国家試験対策はクラス全体・個別の学修指導を国家試験対策委員会・各委員会・チューター等の支援体制を強化する。</p> <p>○令和2年度までのチュータ制度を、令和3年度も継続させ、多様な課題を抱えている学生支援を継続し、学生の心身の安定を図る。4年次はそのままのチューターで就職等の相談・支援を継続するが、看護研究ゼミナール担当も必要に応じ支援する。</p>	<p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>◎臨地実習施設は、佐賀県及び福岡県・長崎県と県域をまたぐ広範囲にわたっている。また、COVID-19の関係から、学生の受け入れ人数の制限を受けていたため、実習指導に当たる専任教員のみでは対応できない。6名の非常勤実習助手の協力を得て、指導体制を整備・強化した。</p> <p>○遠隔授業の継続および臨地実習の代替として学内実習に変更となることがあったため、遠隔授業等のICT教育による設備を整備するとともに教員のスキルを強化し、学修環境を整備した。</p> <p>○新型コロナワクチン接種は学部の全学生・教職員の接種率を上げる努力を早期に行い、感染対策による安全な学修環境と学生の慎重な行動を継続する指導を行い、さらなる感染予防対策の徹底を継続した。</p> <p>○新型コロナワクチンの大学を拠点とした職域接種へ看護学科教職員が協力し、他学部の学生のワクチン接種率を高めるために貢献した。</p> <p>○卒業後に卒業生を臨地実習施設の就職内定により施設に送ることができ、実習病院も大学生の実習指導のあり方が理解できてきた。徐々に大学の専任教員の実習指導に関わる時間は、削減できる。</p> <p>○実習施設と大学を結ぶ遠隔授業の方法を実習に取り入れ、実習内容のさらなる充実と実習施設との連携協働の強化を図った。遠隔実習を4年次実習、3年次の一部実習で行い、新しい方向性を指導者とともに提案してきた。</p> <p>○大学に近い実習施設の開拓を行い、学生・教員の負担を軽くする努力をした。本学の実習の理解を深めるとともに各実習施設の指導者との連携により、高い実習成果を確認できた。地域の病院から、実習受け入れの打診が届き、新規実習施設開拓もスムーズに運ぶなど、本学の知名度を裏付ける結果となった。</p> <p>◎令和3年度、1期生の看護師国家試験・保健師国家試験は100%合格を目指す。その理由は、就職率を100%達成するためには、看護師・保健師の免許を獲得していることが条件となる。加えて、入学生の確保にもつながる。そのため、国家試験対策はクラス全体・個別の学修指導を国家試験対策委員会・各委員会・チューター等の支援体制を強化した。</p> <p>○令和2年度までのチュータ制度を、令和3年度も継続させ、多様な課題を抱えている学生支援を継続し、学生の心身の安定を図る。4年次はそのままのチューターで就職等の相談・支援を継続した。</p>

	<p>○あすなろうⅠの担当教員はチューター担当が一致するように全教員で協力体制をとり、学生の成長促進のため支援する。また、新入生の学生生活や学修方法に対する助言を先輩学生の協力を得られる機会を設け、学生間の交流および学修支援の連携を図る。</p> <p>○国家試験対策のWebサービスの活用を促進するよう働きかけ、継続する。また、3年次・4年次の国家試験対策・模擬試験等の年次計画の実施及び教員の支援体制など学修環境として強化する。</p> <p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>◎令和3年度、1・2・3・4学年がそろい、完成年度を迎える。将来において看護学部の発展を支えるために、学生の意見・要望を適宜アンケート等で把握し、意見・要望に真摯に対応できる体制づくりを整備する。</p> <p>①授業に対しては、中間評価を実施し学生のニーズに沿った授業形態を工夫する。</p> <p>②シラバスにそって履修指導を強化し、学修不良学生のチェックを早期に行い、受験失格などないよう、履修状況を改善し単位取得ができるようにする。</p> <p>③学修不良な学生の支援を適切な時期面接等の修学指導を行い、2年次、3年次の進級判定において原級留め置き学生を出さないように支援する。</p> <p>④臨地実習指導体制については、感染予防対策の徹底を継続し、実習施設および指導者と教員の連携・調整と協力を図り、臨地実習環境を整える。</p> <p>◎完成年度、ほぼMAXの駐車場の確保が必要となり、4期生の入学及び在学生の免許取得による新規増が見込まれ不足が予想される。これまでの小城市及び地域の代表者・機関との話合い等を踏まえ、1学年相当分の駐車台数を同公園駐車スペースに当てさせて戴くべくルール化を図り、学生指導を徹底し、実験実証的に行わせて戴く。これによる課題等を地域の代表者・関係機関へフィードバックしていく。</p> <p>○前年度に引き続き、西九州大学同窓会と連携してワンルームマンション建設（本学部女子学生専用）の実現へ向けて側面的対応を行っていく。</p> <p>◎「大学と連携した小城市まちづくり協議会」を通じて、前記課題等を含め地域住民との連携（理解・協力）を深めていく。</p> <p><b>基準3. 教育課程</b></p> <p><b>《卒業認定、教育課程、学修成果》</b></p> <p><b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b></p> <p>◎単位認定・進級判定において、昨年度の総括をもとに、学生自身の自覚を高め、ガイダンスを徹底する。成績不良学生に対して、チューター・科目責任者、時にチューター主任・保護者等の協力により、改善が図れるよう適宜、面接を行なながら学修指導および支援を実施する。また、非常勤講師及び専任教員の教科目の教育課程・教授方法・試験・追再試験・評価等の見直し・調整を図る。</p> <p>◎完成年度を迎え、4学年揃う教育課程が問題なく円滑に進行するよう、教務委員会・実習委員会と連携し、教員の協力のもと調整を図る。同時に令和4年度開始のカリキュラム改正については、本学部の特徴を出し、基準に沿って適切に検討し文科省申請を行う。</p>	<p>○あすなろうⅠの担当教員はチューター担当が一致するように全教員で協力体制をとり、学生の成長促進のため、定期的に面接の機会をもち支援した。また、新入生の学生生活や学修方法に対する助言を先輩学生の協力を得られる機会を設け、学生間の交流および学修支援の連携を図った。</p> <p>○国家試験対策のWebサービスの活用を促進するよう働きかけ、継続した。3年次・4年次の国家試験対策・模擬試験等の年次計画の実施及び教員の支援体制など学修環境として強化した。合格発表の結果は3月25日だが、100%に近い合格率を達成した。</p> <p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>◎令和3年度、1・2・3・4学年がそろい、完成年度を迎えた。将来において看護学部の発展を支えるために、学生の意見・要望を適宜アンケート等で把握し、意見・要望に真摯に対応できる体制づくりを強化した。意見箱への回答も定期的に行なった。</p> <p>○授業に対しては、中間評価を実施し学生のニーズに沿った授業形態の工夫を行った。</p> <p>○シラバスにそって履修指導を強化し、学修不良学生のチェックを早期に改善し単位取得ができるようとした。</p> <p>○学修不良な学生の支援を適切な時期に行い、2年次、3年次の進級判定において原級留め置き学生を出さないように支援したが、数名の原級留め置き学生を出す結果になった。</p> <p>○臨地実習指導体制については、実習施設および指導者と教員の連携を図り、臨地実習環境を整えた。そのため、学生数の増減に応じた実習施設の確保ができた。</p> <p>◎完成年度、これまでの小城市及び地域の代表者・機関との話合い等を踏まえ、まず「小城本町（小城公園）周辺の4学校長等の集まりの会」を継続開催し、同公園駐車場の一部使用のルール等について整理した。例）本学部生（4年生/30台）の試行的使用の開始、「同駐車場使用予定カレンダー（毎月）」での情報共有並びにケースに応じた混雑回避、併行して同駐車場の一般利用の実態調査（4・5月）を実施した。</p> <p>○前年度に引き続き、西九州大学同窓会と連携してワンルームマンション建設（本学部女子学生専用）の実現へ向けて側面的対応を行い、マンションの建設の用地確保の目途がついた。</p> <p>◎年度末開催の「大学と連携した小城市まちづくり協議会」を通じて、前記課題等を含め地域住民との連携（理解・協力）を深めた。なお、学生駐車場の確保状況について、前記の小城公園駐車場の一部使用の試行的開始を含め報告した。</p> <p><b>基準3. 教育課程</b></p> <p><b>《卒業認定、教育課程、学修成果》</b></p> <p><b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b></p> <p>◎単位認定・進級判定において、昨年度の総括をもとに、学生自身の自覚を高めるために、前期・後期のガイダンスを徹底した。成績不良学生に対して、チューター・科目責任者、時にチューター主任・保護者等の協力により、改善が図れるよう適宜、面接を行なながら学修指導および支援を実施した。また、非常勤講師及び専任教員の教科目の教育課程・教授方法・試験・追再試験・評価等の見直しと、領域間での調整を図り、評価に関する学生の不服申し立てに対し、関係教員が対応した。</p> <p>◎完成年度を迎え、4学年揃う教育課程が問題なく円滑に進行するよう、教務委員会で学年進度や時期の調整、単位読み替えの準備を行い、実習配置計画やオリエンテーション等の調整など実習委員会と連携し、教員の協力のもと調整を密に</p>	9
--	---	--	---

	<p>○講義・演習はじめ、臨地実習に関して、新型コロナウイルス感染対策を徹底するとともに実習施設との調整を行い、学修環境を整え、学内実習においても目標達成するよう教育方法の工夫に努める。</p> <p>◎4年次は最終学年となるが、全員が卒業し、国家試験に合格するよう、就職対策および国家試験対策を行なながら、4年次の看護研究ゼミナール・臨地実習、保健師課程実習・養護教諭教育実習等の指導・支援を科目担当者およびチーフターとともに協力して支援する。</p>	<p>図った。</p> <p>○講義・演習はじめ、臨地実習に関して、新型コロナウイルス感染対策を徹底するとともに実習施設との調整を行い、学修環境を整え、学内実習においても目標達成するよう教育方法の工夫に努めた。感染状況は極力抑えることができたが、公欠者等の対応では、追試験・追実習で補い履修できた。</p> <p>○4年次生88名の学生は、全員卒業できた。3月25日発表予定の看護師国家試験、保健師国家試験の合格発表の結果を受けて、就職内定者の対応を進める。不合格の場合は、就職内定の取り消しとなるため就職先の連絡は、学部長が責任を取り、実施する。</p> <p>○卒業研究は、看護研究ゼミナールとして88名の抄録集を冊子として作成し、発表会を国家試験終了後に企画し、4年生全体を4Gに分け、実施した。当日欠席者の3名も後日、3年生に向けた4年生の就職対策等の取り組みの説明会終了後、3年生の前で発表できた。</p>	
	<p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>◎昨年より継続している遠隔授業のTeamsへの変更を円滑に行い、かつ、授業評価に対する教員の評価・コメントと改善に向けた対策をもとに教授内容・方法の改善を図り、学生の理解を深め、満足感を高める。</p> <p>○いのちの科学の学修方法の指導を、学生の意見等を聴きながら強化する。</p>	<p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>◎昨年より継続している遠隔授業のTeamsへの変更を1年次生から円滑に行い、後期は2・3年次へと移行した。</p> <p>授業評価に対する教員の評価・コメントと改善に向けた対策をもとに教授内容・方法の改善を図り、学生の理解を深め、満足感を高めた。</p> <p>○いのちの科学の学修方法の指導を、学生の意見等を聴きながら強化した。</p>	8
	<p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>◎4学年揃い、3Pが反映した学修成果の点検・評価について、4学年の教育課程の達成状況、学習成果の自己評価等を把握し、評価する。</p> <p>①学修成果においては、国家試験対策における模擬試験結果等と関連し、修得状況を把握し、参考にする。</p> <p>②3ポリとの関連がつながっている学修成果の点検・評価を各教員が科目及び臨地実習において、目標や評価等の点検を行い、シラバス内容が改善できるようシラバスチェックを行なう点検する。</p>	<p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>◎4学年揃い、3Pが反映した学修成果の点検・評価について、4学年の教育課程の達成状況、学習成果の自己評価等を把握し、評価した。</p> <p>学修成果においては、国家試験対策における模擬試験結果等と関連し、修得状況を把握し、参考にした。学生の教育目標の達成状況・学習成果の入力状況がまちまちであったが、4年次揃ったので、その基準値を設定した。</p> <p>○3ポリとの関連がつながっている学修成果の点検・評価を各教員が科目及び臨地実習において、目標や評価等の点検を行い、シラバス内容が改善できるようシラバスチェックを行なう点検した。</p> <p>○入学前教育の受講者と入学後の学修成果について、全教員ヘデータの説明と回覧を行なったに過ぎなかった。各学年毎の検討が不十分であった。</p>	8
	<p><b>基準5. 経営・管理と財務</b></p> <p>《経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計》</p> <p><b>【5-1 経営の規律と誠実性】</b></p> <p>◎前年度に引き続き、「ノー残業デー（水曜日）」実施や、計画年休の取得など「働き方改革」について、さらに励行の周知・徹底を図る。</p> <p>◎前年度に引き続き、佐賀県取組「夏のクールビズ宣言事業所」「冬のウォームビズ宣言事業所」であることからも、職場における適切な空調温度管理（原則室温：夏28℃、冬20℃設定）、エコスタイル（夏クールビズ、冬ウォームビズ）対応について、励行の周知・徹底を図る。</p> <p>併せて、完成年度を迎える光熱水量等は使用増になる可能性は高いが、極力経費節減の協力要請を行なう。</p>	<p><b>基準5. 経営・管理と財務</b></p> <p>《経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計》</p> <p><b>【5-1 経営の規律と誠実性】</b></p> <p>◎前年度に引き続き、「ノー残業デー（水曜日）」実施や、計画年休の取得など「働き方改革」について、さらに励行の周知・徹底を図った。なお、法人本部から給与制度改定に付随する問題として、時間外勤務の縮減取組み「ノー残業デー」の設定・推進についての通知（1月）があった。</p> <p>計画年休は、教授会等で周知を図り年度末に実施できた。</p> <p>◎前年度に引き続き、佐賀県取組「夏のクールビズ宣言事業所」「冬のウォームビズ宣言事業所」であることからも、職場における適切な空調温度管理（原則室温：夏28℃、冬20℃設定）、エコスタイル（夏クールビズ、冬ウォームビズ）対応について、励行の周知・徹底を図った。</p> <p>併せて、完成年度を迎える光熱水量等は使用増になる可能性は高いが、極力経費節減の協力要請を行なった。</p>	8
		当該委員会 達成度集計	74/90
		達成度平均点	82/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
全学教務 委員会 (委員長)	◎全学的マネジメントの体制強化 <b>【到達目標】</b> ・企画委員会、学部長会議での全学教務委員会の情報発信と各学部との連携を強化する。	◎カリキュラム変更に伴う学則変更など企画委員会において情報を協議し、各学部教授会で上申した後、学部長会議での情報発信と共有を強化した。	9
	◎共通教育の見直し <b>【到達目標】</b> 令和4年度よりの実施を目指し、共通教育を全面的に刷新する。	◎次年度は全学部において共通教育科目にデータサイエンス科目およびSDGs科目開設や外国語科目、スポーツ科目等の見直しを行った。	10
	◎学士力到達度を測るための到達度の可視化 <b>【到達目標】</b> ・学士力到達度を測るためのカリキュラムマップと到達度の可視化については、実施率80%を目標に実施する。	◎ループリック評価指標を用いて実施率80%を目指したが、全体で50%程度の達成率であった。	6
	○教育・研究の地域志向化を見据えた教育内容の整備 <b>【到達目標】</b> ・本学の強みと地域志向を踏まえたデータサイエンス科目を全学部での実施を目指す。	○次年度は全学部において、リテラシーレベルの「データサイエンス科目」を共通教育科目（必修3単位）として開設し、全学生と取り組むことが可能となった。	10
	○3キャンパス教務課との連携 <b>【到達目標】</b> ・定期的に連絡を取り合いながら、開講し、科目のよりよい実施運営に向けて検討を行う。	○毎週水曜日の共通教育科目を通年を通して遠隔授業で実施した。また、事務的には、学内LAN上で教務部「共通フォルダ」の中に各業務マニュアルの整備を実施した。	7
	◎リメディアル教育のあり方の検討 <b>【到達目標】</b> ・更なるリメディアル教育の充実について検討し方向性をまとめる。	◎例年通り、プレースメントテストを全学科実施し、リメディアル教育をあすなろう科目の中に含めた。	8
	◎高大連携教育の推進 <b>【到達目標】</b> ・佐賀清和、佐賀学園及び龍谷高校との高大連携事業の更なる活性化に向けて検討する。	◎コロナ禍のため、例年の高大連携事業については活発に実施することができなかつたが、佐賀清和高校とのボルダについては2年生までを対象に含めた形で実施し、195名もの参加があった。	8
	○休学・退学調査と対策 <b>【到達目標】</b> ・調査・分析結果を全学的に検討し、対策をとりまとめる。	○IR室と連携して各学科の分析結果を示し、各学科より対策を提出した。	7
	◎高等教育の負担軽減に向けた方策について円滑に進めていく。また、出席管理の電子化を目指す。	◎次年度から実施の高等教育無償化に対応すべく、要件の出席管理に対しての注意確認を行ったが、70%程度であった。	7
		当該委員会 達成度集計	72/90
		達成度平均点	80/100

## 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
共通教育 運営委員会 (委員長)	<p>◎次年度より神埼キャンパスでの共通教育科目開設を週 1 回（水曜日）のみとし、学生への負担軽減を目指す。</p> <p>◎共通教育の見直し <b>【到達目標】</b> 令和4年度よりの実施を目指し、共通教育を全面的に刷新する。</p> <p>◎看護学科の完成年度後においては、リテラシーレベルのデータサイエンス科目を全学部3単位必修とし、すべての学生に今後必要となる数理的思考力とデータ分析活用能力を体系的に身につけることを目指す。</p>	<p>◎共通教育の講義科目はすべて遠隔で実施できたため、また Wi-Fi 環境も整備されたことにより、学生は各自所属キャンパスで受講可能となった。また、看護学科のスポーツ科目（実技）も小城キャンパスでの実施が可能となった。</p> <p>◎次年度は全学部において共通教育科目に「データサイエンス科目」（必修3単位）を開設し、併せて SDGs 科目開設や外国語科目の大幅な見直しも行い、スリム化を図った。</p> <p>◎次年度は全学部において、リテラシーレベルの「データサイエンス科目」を共通教育科目（必修3単位）として開設し、佐賀の地元企業と提携してデータ分析などの授業展開をすることが可能となった。</p>	10 9 10
		当該委員会 達成度集計	29/30
		達成度平均点	97/100

## 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
教職課程 委員会 (委員長)	◎各学科における教職課程科目の円滑な実施 <b>【到達目標】</b> ・定期的に打ち合わせ、会議を実施する。	◎教職課程のある学科において、学科会議等で打ち合せを実施した。	9
	◎2021年度教員免許状更新講習の円滑な実施する。	◎教職センターと連携し運営等を担い、実施を行った。コロナ禍や豪雨に見舞われたが、感染防止対策を徹底したうえで、全講座対面にて実施できた	10
	○教職履修カルテを積極的に活用する。	○履修科目の追記・作成を行い、積極的に活用を進めている。	7
	○教職センターとの更なる連携を図る。	○教職センター主催の教員採用試験対策などを積極的に実施した。	6
	○市町村教育委員会との連携を強化する。	○今年度も佐賀市教育委員会および神埼市教育委員会との教育実習に関する申し合わせ事項を確認し、実習生の受け入れをしていただいた。	8
		当該委員会 達成度集計	40/50
		達成度平均点	80/100

西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
学生支援委員会 (学生支援部長)	◎経済的支援の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的困窮学生等に対する奨学金等、有効的活用。</li> <li>・修学支援新制度 コロナ禍もからみ、JASSOは申請頻度を増やしているため、困っている多くの学生が申請できるように周知をおこない、滞りなく申請できるようにする。</li> </ul>	・コロナ禍による文科省緊急給付金を活用し、281名の学生へ10万円の給付金支援ができた。 ・日本学生支援機構の修学支援制度についての情報はポータルサイトやダイレクトメールを活用し、全学生へ案内し、金銭的支援を必要とする学生が支援を受けられるよう、申請におけるサポートをおこなった。	10
	◎学生生活支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場 2022年度から学生駐車料金値上げが予定されているため、検討していたチェーンゲートなどの検討を継続していく。</li> <li>・基本的なマナー・モラル、交通マナーを向上させるための取り組みの強化。</li> </ul>	・コロナ禍継続により2021年度値上げは行われなかつたが、オンライン授業の影響もあり、申請する学生を増やすなかつた。駐車場管理と申請者を増やすための施策としてチェーンロック設置の予算申請をおこなつたが、将来の検討事項として実施までは至らなかつた。  ・駐車場での接触事故発生、敷地内から道路への飛び出しなど、総じてポータルサイトで注意喚起やマナーについて掲載した。	5
	◎障がい学生支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい学生支援室運営委員会と連携し、現状出来ていることの整理と情報共有を行い、今後の課題について協議していく。</li> </ul>	障がい者へ支援できる項目・内容についての整理はできているが、今後の課題等についての協議まではできなかつた。	2
	◎学生相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>・UPIを実施、学生相談室(CS)と連携し、配慮が必要な学生の実態把握、支援内容の検討を行う。</li> </ul>	・3月前期ガイダンスはUPIを対面実施、9月後期ガイダンスはwebで実施した。web回答率は46%で多くはなかつたが、前期と併せて学生相談室と情報共有し、学生の実態把握と支援を行つた。	8
	◎学友会関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学友会の活動がより活性化するように学友会学生と相談しながら学友会室の充実を図る。</li> <li>・学園祭実行委員と学友会がうまく連携し、活発な学園祭となるようにサポートしていく。</li> <li>・サークル棟建て替えに向け、学友会と意見交換しながら建築業者とも協議していく。</li> <li>・コロナ禍が継続するため、サークルが活動しやすいように、サークル・学友会と連携し、意見交換しながら進めていく。</li> </ul>	・パソコン増設、プリンタが壊れたため新品交換など、より活動がしやすいようにしたことも含め、学友会とは頻繁に会話ができる関係を構築できている。  ・今年度も学園祭が中止となり、昨年同様の動画制作コンテストに加え、学科ロゴコンテストと併せて2つの企画を行つた。参加人数が少なかつたということが課題として残つた。	9
	◎学生食堂 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備の老朽化など、西九大サポート協議しながら、学生食堂の運営を進めていく。</li> </ul>	・コロナ禍で建設費(材料コスト)の高騰など、次年度以降の検討事項となつた。	6
	◎学生就職支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援</li> </ul>	・サークル活動ができないことなどの影響で新入部員が入つてこない等により休部になつたサークルが出てきた。来年度に向けて、新入生オリエンテーション時にサークルによる勧誘活動(ちらし配り)を学友会と相談しながら計画中である。	7
		・今年度は神崎C学生食堂のリフォームをおこない、4月以降リニューアルオープンを予定している。その他、感染予防として厨房水栓をハンドルタイプからレバータイプへ変更した。	9
		・現3年生向け学内就職説明会をオンラインで開催、学生	9

	<p>学生の就職ニーズに併せた就職支援を行い、一般企業等の求人開拓を行うことと、コロナ禍で出来る支援を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ</li> </ul> <p>インターンシップ情報の発信方法等について検討し、学生の就職支援の一環としてインターンシップ参加者を増やすように努める。</p> <p>◎学生生活実態調査を行い、改善項目を整理し、教授会等へ報告を行うことと、別途令和2年度にEvery企画と協議した分析方法にてIR室と連携しながら分析をおこなう。</p> <p>◎卒業生に対するアンケート調査を実施し、その情報を在学生にフィードバックしながら、将来を見据えた意識改革を行う。</p>	<p>5名から申し込みがあり、企業11社に対応いただき開催することができた。学生アンケートでは「就職活動に向けて関心が深まった」など良い結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイトに「インターンシップ」情報のみを掲載するウィンドウを設け、全学生向けで情報配信を行った。九州インターンシップ協議会経由のインターンシップ参加希望者がいた。</li> </ul> <p>学生生活実態調査結果は教授会等で各学科と共有した。Every企画と契約解除に伴い分析までできなかつた。</p> <p>調査結果は、在学生への就職支援の中で、将来の就職後の自分に置き換えて意識しながら就職活動へ取り組むように活用した。</p>	9
		当該委員会 達成度集計 114/15 0	7
		達成度平均点 76/100	6

西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
入試広報委員会 (委員長)	<p>◎入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持 【到達数値目標】</p> <p>①入学者数：540名 ②志願者数：950名 ③OC 参加者数：全体 1,500名 (うち生徒数 900名)</p> <p>◎【募集広報の範囲、対象、方法の再構築（継続）】</p> <p>・マスメディアおよび動画を活用した広報戦略の検討と実施</p> <p>・定員充足を目的とした入試制度の検討（継続）</p>	<p>◎入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持 【数値目標に対する結果】</p> <p>① 入学予定者数：509名 ( 3／10 現在の入学手続者数) ② 志願者数 866名(3／10 現在) ③ OC 参加者数（学校見学会含む）： 全体 1407名(うち生徒数 818名)</p> <p>◎【募集広報の範囲、対象、方法の再構築】</p> <p>コロナ禍によるオープンキャンパス参加者減を補完するため学校見学会を複数回実施し、コロナ禍前のオープンキャンパス参加者数とほぼ同等数の動員を確保できた。</p> <p>ホームページ上にオンラインオープンキャンパスとして特設ページを設け、各学科の紹介動画ならびにサークル、寮などの紹介動画を多数掲載した。 また、LINE を活用した相談窓口も特設ページに設け、SNS の活用が主流となっている受験生からの質問に丁寧に対応した。</p> <p>・一般選抜III期試験問題を全学科共通問題にして第一志望学科以外の学科でも合格を出せるようにした。</p>	6 7 7 7
		当該委員会 達成度集計	27/40
		達成度平均点	68/100

## 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び担当	令和3年度検討および実施事項	令和3年度総括	達成度
図書館 (委員長)	◎ 図書館の整備充実 <b>【到達目標】</b> ①神埼キャンパス及び佐賀キャンパスの図書の整理及び3キャンパスにおける図書収容能力の確保（継続）  ②機関リポジトリの積極的な活用の周知（継続）  ③小城キャンパス分館の設置計画に基づく整備（継続）  ④多目的室のラーニングコモンズ機能の充実・活用（継続）  ⑤3キャンパスの図書館業務の連携等の促進及び予算の計画的な執行に関する意見収集など図書委員会の機能充実（継続）	①神埼キャンパスにおいて 44 冊、佐賀キャンパスにおいて 515 冊（大学 103 冊、短大 412 冊）の図書等の除籍を行い、収容能力の確保を図った。なお、除籍処分を行った資料については、古本募金制度を利用し、大学の収入確保に寄与した。  ②「研究成果を可能な限り、機関リポジトリによって公開する」旨のオープンアクセスポリシーを制定した。また、紀要論文の査読に関するエビデンス資料として紀要投稿要項を機関リポジトリ内に掲載した。  ③設置計画に基づく整備のうち図書については、開設 1 年目で整備が完了しており、今年度は 1,099 冊（うち大学院修士課程用 311 冊）を受け入れ、充実を図った  ④図書館事務室に隣接している多目的室の施解錠及び見回りを図書館で実施し、ラーニングコモンズ機能の一部として利用していたが、9 月の 1 号館への土砂流入により総合研究室が移転することにより、当該機能としての役割は果たせなかつた。  ⑤各学科図書委員に四半期ごとに当該学科の予算執行状況の周知を図り、予算の計画的執行を促した。	7 7 9 4 8
		当該委員会 達成度集計	35/50
		達成度平均点	70/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和3年度検討および実施事項	令和3年度総括	達成度
リカレント教育・研究推進本部 (本部長)	<p>◎地域のステークホルダーとの連携を強化するとともに、QSP事業等の十全なマネジメントを行う。</p> <p>◎リカレント教育・研究推進本部規程の整備を行う。</p> <p>◎健康支援センターおよび健康福祉・生涯学習センターの運営体制を見直す。           <ul style="list-style-type: none"> <li>両センターの役割分担の明確化を行う。</li> <li>コロナ対策を行いつつ、各センターの利用者数及び利用コンテンツ数の増加に努める。</li> </ul> </p> <p>◎産学官連携推進室の運営体制を整備し、産学官連携事業を伸長させる。</p> <p>○履修証明プログラムについて、本学が実施可能な特色のあるプログラムづくりの調査を行う。</p>	<p>◎地域ステークホルダーとの新たな連携を構築することはできなかった。QSP事業に関しては、コロナ禍という困難な状況下、健康維持・増進のための教室運営を行うことはできなかったが、QSP健康ウォークは例年通り開催することができた。今回のイベントにも多くの高校生ボランティアの参加を実現することができた。参加者の満足度も従前どおり高位であった。健康医療福祉専門委員会としての取りまとめの役割も果たすことができた。</p> <p>◎リカレント教育・研究推進本部の規程整備は今年度も行うことができなかった。組織改編への手続きに取り掛かれていたことが原因である。</p> <p>◎両センターの役割分担を明確化することはできなかった。特に健康支援センターはコロナ禍の影響を強く受け、多くの活動を中止せざるを得なかつた。</p> <p>◎健康福祉・生涯学習センターは、県内の公民館や各種広報誌等への広報活動を強化し、次年度の在籍者100名の確保を目指して広報した。その結果、令和4年度は95名が在籍することとなり、おおむね目標を達成することができた。</p> <p>◎放課後児童育成事業（学童保育）をセンター内に開設し、令和4年4月1日より神野校区の児童を受入れ、事業を開始することとなった。</p> <p>◎エルダーカレッジの高齢者用の教室整備、学童保育の児童用のトイレ設置及び教室の環境整備を行った。</p> <p>◎産学官連携推進室の運営体制については、具体的に進めることができなかった。産学官連携推進室が主催となってのFD研修会を実施することができた。佐賀大学、長崎国際大学と連携して「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」を実施し、大学間の連携と共に中学・高校との交流を深めた。QSPの地域・産学連携系WGとして、大学・企業間の連携を深めた。今年度の共同研究、受託研究・事業の件数は10件（補助金の総額：約772万円）となり、昨年度より2件減少（補助金額：約115万円減少）した。</p> <p>○履修証明プログラムを実現するために学長主導のもと実施された「リカレント教育のためのデータサイエンス講座」を令和4年1月～2月にかけて実施することができた。地方創生に関心のある社会人、とくに地方自治体職員を対象としたものであったが、実際には多様な職種の社会人の参加を得ることができた。</p>	<p>5</p> <p>0</p> <p>0</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>6</p> <p>8</p>
		当該委員会 達成度集計	48/80
		達成度平均点	60/100

西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
国際交流センター (委員長)	<p>◎地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立（継続） ・地域住民と留学生の交流を活性化させ、地域一体となってグローバル化を推進する（継続）。  この具体的なアプローチは次の通りである。            (1) 佐賀県立商業高校グローバルビジネスコースの「多文化理解」の授業（年2回4コマ分）と本学留学生との国際協働授業は継続開講する。             (2) 「SAGA まちづくり留学生市民フォーラムプロジェクト」という事業名で、公益財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業の助成金を申請した。もし採択されると、ACC活動を中心に、「フォーラムの開催」や「留学生市民協議会の設立」などに取り組む。             (3) 短大部の田中知恵教授チームの活動も充実させる（継続事業）。            ① 佐賀市（国際課・国際交流協会、観光協会等）との国際交流。地域連携活動（継続）            ・学生支援課と留学生のいる2コースと協力し、佐賀市国際交流協会と連携した留学生のための生活支援ガイダンスの実施（ゴミの分別、その他）（新規）             ② 進路ガイダンスを通じた高校生との国際交流（佐賀東高校）            ・実施後の反響をみて、改善し、継続を考えている             ◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応（継続）            ・九州西部地域大学・短期大学との連携を通じ、該当地域全体の日本人学生の海外派遣及び留学生受入れをそれぞれ拡大させる（継続）。             この具体的なアプローチは次の通りである。            (1) 令和3年度QSP事業企画書として、ACC活動を年2回くらい実施する（継続）。             (2) 「2021 さが国際フェスタ月間」（佐賀県国際交流協会主催）や「2021年度王仁公園わくわくフェスタ」（神埼市主催）などの企画に申請、参加する。             ◎正規留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を拡大させ、西九州大学グループ全体の国際化を推進し、激化するグローバル化社会へ対応できる基盤を確立させる（継続）。            ・大学、短期大学部ともに毎年度最低10名以上の正規留学生を受け入れる（継続）。            この具体的なアプローチは次の通りである。            (1) 「エージェント制度」はとくに大学院レベルにおいて「大</p>	<p>◎地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立（継続） ・地域住民と留学生の交流を活性化させ、地域一体となってグローバル化を推進する（継続）。  この具体的なアプローチは次の通りである。            (1) 佐賀商業高校での国際教育活動に留学生が参加した。2回に分けて4名の留学生が母国紹介や高校生との意見交換を行った。（ベトナム・スリランカ・ミャンマー・ネパール）             (2) 公益財団法人中島記念国際交流財団助成には採択されなかった。             (3) 短大部の田中知恵教授チームの活動も充実させる（継続事業）            ①佐賀市（国際課・国際交流協会、観光協会等）との国際交流。地域連携活動（継続）            ・佐賀市観光協会との共同企画「街歩きツアー」を2回実施した。留学生2名がツアー企画・運営を担当した。            ・授業科目「地域生活支援学」の一環として、地域における国際イベントへの参加、公民館活動、ごみ拾いボランティア活動を実施した。授業科目「インターナショナルシップ」では佐賀市の観光ガイド研修を実施し、1名の留学生が参加した。             ②進路ガイダンスを通じた高校生との国際交流（佐賀東高校）            ・進路ガイダンスを通じた交流活動を実施することはできなかった。             ◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応（継続）            ・九州西部地域大学・短期大学との連携を通じ、該当地域全体の日本人学生の海外派遣及び留学生受入れをそれぞれ拡大させる（継続）。             この具体的なアプローチは次の通りである。            (1) コロナ禍により、ACC活動は全面中止であった。             (2) 2021年10月に小城市で開催された「さが国際フェスタ」に短大部の学生と教員約20名が参加した。「留学生の母国の遊び」をテーマに、中国、台湾、ネパール、スリランカ、ベトナムの遊びを紹介するブースを設けた。留学生が中心となり各國の遊びを来場者に紹介した。             ◎正規留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を拡大させ、西九州大学グループ全体の国際化を推進し、激化するグローバル化社会へ対応できる基盤を確立させる（継続）。            ・大学、短期大学部ともに毎年度最低10名以上の正規留学生を受け入れる（継続）。            この具体的なアプローチは次の通りである。            (1) 「エージェント制度」は短大部で先行導入して、す</p>	8
国際交流センター (委員長)	◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応（継続） ・九州西部地域大学・短期大学との連携を通じ、該当地域全体の日本人学生の海外派遣及び留学生受入れをそれぞれ拡大させる（継続）。	この具体的なアプローチは次の通りである。 (1) コロナ禍により、ACC活動は全面中止であった。  (2) 2021年10月に小城市で開催された「さが国際フェスタ」に短大部の学生と教員約20名が参加した。「留学生の母国の遊び」をテーマに、中国、台湾、ネパール、スリランカ、ベトナムの遊びを紹介するブースを設けた。留学生が中心となり各國の遊びを来場者に紹介した。	7
国際交流センター (委員長)	◎正規留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を拡大させ、西九州大学グループ全体の国際化を推進し、激化するグローバル化社会へ対応できる基盤を確立させる（継続）。	この具体的なアプローチは次の通りである。 (1) 「エージェント制度」は短大部で先行導入して、す	8

	<p>「学院拡充と定員確保」のため、今後も継続事業とする</p> <p>(2) 「河北省ルート」については、今年度実用化直前までいつたので、引き続き「学部3年次編入生」や「大学院研究生」を中心に、派遣元の先生に働きかけていく。</p> <p>(3) 「本学留学生紹介ルート」については、引き続き出身校の後輩や友人に対し、本学への派遣を強く推奨してもらう。</p> <p>(4) 「短大からの3年次編入生ルート」については、引き続き「学位取得コース」として「大専（中国の3年制大学）」の学生を中心に呼びかけていく。</p> <p>(5) 「大連ルート」の更なる開発：来年度は当法人が関連する学校より5名の留学生（研究生）を紹介してもらっている。これを先行事例に、ここから派遣される留学生を日中介護福祉人材育成プロジェクトとして位置づけ、更にいろいろな可能性を協議していく。</p> <p>(6) 「貴州省ルート」については、昨年末に正式に始まった意見交換をきっかけとして、「アジアの健康福祉人財の国際循環型協働教育システム開発」に向け、継続して検討する。</p> <p>(7) 短大部は引き続き、当事業を活用しエージェント制度の拡大を図る。一方、大学側は、エージェント制度が来年度以降も実現できない可能性も踏まえ、留学生の県内就職・進学の定着に資することが出来る、新たな取り組みを模索する。</p> <p>・大学は最低100名以上、短期大学部は最低15名以上の日本人学生の海外派遣を毎年度行う（継続）。</p>	<p>にある程度の実績があり（当制度による受け入れている短大の正規留学生数はR2年度25名／今年度はR4年2月18日付で26名が入学予定）、正規留学生獲得のために有効な手段であることがデータとしても読み取れる。そのため、大学・大学院でも昨年度に引き続き導入を働きかけているが、大学側上層部の判断により、現状実現できていない。</p> <p>(2) 「河北省ルート」は、コロナの影響が続いて派遣元の需要が低迷したこともあり、今年度の受け入れはできなかつた。しかしその意見交換や交渉は継続していた。</p> <p>(3) 「本学留学生紹介ルート」として、短大部は日本国内の日本語学校出身者とミャンマーの学生が、母校の後輩達に本学への留学を勧めてくれたことで、一定の新規留学生の獲得に繋がった。</p> <p>(4) 「短大からの3年次編入生ルート」は希望者がいなかつたため、実績なし。</p> <p>(5) 「大連ルート」より今年度受け入れた5名の研究生は、初のオンライン形式による受講であり、物理的な距離が主な原因で十分な支援をしてあげることが困難ではあったが、派遣元との緊密な連携及び入試広報課の協力により、本学大学院入試を遠隔で参加することができ、結果、次年度は本学の修士課程への進学に繋げることができた。また、同ルートの紹介により、今年度後期から1名の研究生を追加で受け入れており、同様に次年度より本学修士課程に進学が決定している。</p> <p>(6) 昨年度に始まった複数回のオンライン形式の交流を経て、今年度、ようやく貴州民族大学との間で「貴州省ルート」を推進するための基盤となる「学術交流協定」を締結することができた。また、このことを背景に、貴州省の州都にある貴陽市第十中学校（日本の高校に相当）の要望により「オンライン留学説明会」を開催し、学生50名以上に対して本学への留学について説明を行なった。</p> <p>(7) 昨年のクーデターを発端としたミャンマー国内の情勢不安が、同国からの留学生の安定的な受入れに当面は消極的に影響する可能性を見据えて新たな提携席を模索した結果、短大部が香港の日本語学校「SHIN日本語学校」とエージェント制度の協定を結ぶことができた。また、留学生の出口戦略にフォーカスし正規留学生獲得に繋げるプログラムを企画立案し、令和4年度のセンターの重点事業の1つとして提出した。</p> <p><b>●令和3度正規留学生の受け入れ実績</b> 前年に引き続きコロナ禍により、国際間移動が大幅に制限されたため、目標達成は困難であった。</p> <p>大学・短大 計71名（内、37名新規）      &lt;内訳&gt;      大学院・・・計6名（内、2名新規）      学部・・・計2名（内、0名新規）      短大・・・計63名（内、35名新規）      ※短大の新規受け入れ留学生の中で、27名はコロナの影響により依然未入国。      ※その他、大学院研究生6名（内、6名新規）を受け入れたが、コロナの影響により5名は依然未入国  <p>・大学は最低100名以上、短期大学部は最低15名以上の日本人学生の海外派遣を毎年度行う（継続）。</p> </p>
--	--	---

	<p>コロナに起因する感染危機レベルが下がるまでは、本学の方針に基づき、派遣事業には残念ながら着手できない。また、これまで日本人学生派遣（特に短期プログラム）の起爆剤となっていた、JASSO海外留学支援制度について、プログラム申請要件が来年度より厳格化された。これを受け、連続して31日以上実施されるプログラムのみが対象となつたが、仮に採択されたとしても、正課に海外派遣が組み込まれておらず、また、長期休暇中も実習などで忙しくなる大部分の本学学生にとっては、実質、参加が不可能となつてくるだろう。そのため、ポストコロナ時代に向け、国の補助金に依存しない、学生が興味を惹くユニークなプログラム作りを検討していく。</p>	<p>コロナ禍において、外務省が発信する4段階の感染症危険レベルは、依然として世界的にレベル2以上となっており、本学の海外危機管理マニュアルに沿つて、昨年同様、全ての派遣プログラムが中止となった。しかし、新しい試みとしてオーストラリアンカソリック大学と提携し、2月にオンライン形式による約10日間の留学プログラムを開催したところ、2名の学生が参加してくれた。また、短大部独自のプログラムとして、台湾の義守大学とタイのプラバード大学とオンラインで繋ぎ双方の学生交流を行つた。日本人学生7名が参加し、文化紹介や互いの文化や学生生活についての意見交換を行い相互理解を深めた。</p>	
		当該委員会 達成度集計	23 / 30
		達成度平均点	77 / 100

## 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
情報メディア センター (センター長)	<p>1. 情報システム室と連携し、従来の教育情報基盤システムの現状把握と課題の洗い出しを行った上で、「令和3年度情報メディア教育基本計画」を策定するとともに、情報システム室が実施する学内情報ネットワーク等の整備に係る「令和3年度情報基盤整備計画」への適正な反映を要請する。</p> <p>2. 学生教育に関して、オンライン授業の定着と発展に資する、学生および教員に対するサポート(オンライン教育システムの構築、実施体制の整備、など)を実施する。</p> <p>3. 学生教育に関して、新科目「データサイエンス」の担当者とも連携し、情報セキュリティ及び情報モラルに関する広報活動等を実施する。 教職員に対して、新しい情報基盤システム利活用に際しての情報セキュリティに関する研修会を実施する。</p>	<p>1. 情報システム室と連携し、従来の教育情報基盤システムの現状把握と課題の洗い出しを行った結果、学内ネットワークの基盤をなす機器の大幅な更新が必要なこと、3キャンパス間の接続方法の変更が必要なことなどが明らかになった。何れも多額の費用が必要となるが、優先順位をつけながら今年度は、学生の「質の高い学び」実現に向けてWi-Fi機器の更新と接続方法の見直しを各キャンパスで進めることができた。他の項目については、予算化した上で順次速やかに取り組んでいくこととなった。</p> <p>2. オンライン授業の本格実施2年目となる本年は、3月末の在校生向けガイダンスで、Office365への移管によるメールシステムの変更、Teamsの導入などを行った。また、PC必携化初年度として、新入生ガイダンスでPCの初期設定、学内Wi-Fiへの接続方法などの説明行った。情報メディアセンター運営委員でもある各学科の先生方とも協力して、万全とは言えないものの十分なサポート体制を敷くことができた。 教員向けとしては、Teamsを利用しての課題の作成・配布・提出状況の確認等に関するきめ細かい研修会を実施した。情報システム室から技術面でのサポートをしてもらうことができ、大変助かった。</p> <p>3. 今年度から1年生必修科目として設定された「データサイエンス入門/演習」の中で、情報モラルを含めた情報リテラシー教育の内容が取り上げられたことで、学生のリテラシーレベルは高まったものと思われる。 教員向けの行った「新しい情報基盤システム」の説明会で、基本的な内容に説明したが、今後クラウド上のサービスを利用する機会が増すことを考慮すると、情報システム室と協力して、更なる「高度セキュリティ研修会」を定期的に実施する必要があるものと思われる。</p>	8 9 7
		当該委員会 達成度集計	24/30
		達成度平均点	80/100

## 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び 担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
SD委員会 (委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関する職員の資質・能力向上への取組み           <ul style="list-style-type: none"> <li>・SD研修を年2回以上実施する。</li> <li>・QSP主催の研修に参画する</li> </ul> </li> </ul>	<p>◎SD研修の実施</p> <p>令和3年度は、第1回目を8月17日に人事評価制度の評価についての研修会を予定していたが中止となり、QSP主催の「研究マネジメント人材育成」研修を10月21日～29日にVTRでの開催に留まった。</p>	4
		当該委員会 達成度集計	4/10
		達成度平均点	40/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和3年度検討および実施事項	令和3年度総括	達成度
教職センター (センター長)	<p>◎教職センターの運営 【到達目標】 ・教職課程開設学科より運営委員を選出し、運営会議を定期的に行い、業務の遂行と各学科の連携を図る。</p> <p>◎教育委員会との連携 【到達目標】 ・佐賀市教育委員会ならびに神埼市教育委員会との教育実習協議会を継続実施する。 ・小城市教育委員会と養護実習について協議を行う。</p> <p>◎教員免許状更新講習の推進 【到達目標】 ・必修領域1講座、選択必修3講座、選択領域10講座を実施する。</p> <p>◎教育実習サポート体制の充実 【到達目標】 ・教育実習の向上を目指し、教育実習事前事後指導及び実習期間中の巡回指導を行う。</p> <p>◎教員採用試験対策の推進 【到達目標】 ・各学科の教員採用試験に向けての取組や全学教職勉強会の開催等を通して、合格者増加へと繋げていく。  ・状況を見て、九州各県教育委員会の教員採用試験説明会を実施する。</p>	<p>◎教職課程開設学科より運営委員を選出し、運営会議を2回行い、業務の遂行と各学科の連携を図った。</p> <p>◎コロナ禍にて教育実習が変更になつたりしたが、佐賀市ならびに神埼市教育委員会との教育実習協議会を実施し、教育実習の円滑な実施を推進した  ・小城市教育委員会と教育実習について協議し、教育実習の円滑な実施を推進した</p> <p>◎教員免許状更新講習は、コロナ禍で開催が危ぶまれたが、必修領域1講座、選択必修3講座、選択領域8講座を対面にて実施し、延べ257名の参加があつた。</p> <p>◎教育実習の向上を目指し、各学科で教育実習事前事後指導とともに実習期間中の巡回指導を行い、教育実習サポート体制の充実を図った。</p> <p>◎教員採用試験対策の推進 【到達目標】 ・各学科の教員採用試験に向けての取組指導や遠隔での教職勉強会の実施、全国模試の情報提供を行つた。  ・佐賀県と長崎県の教員採用試験説明会を実施した</p>	9 9 9 9 7
		当該委員会 達成度集計	43/50
		達成度平均点	86/100

# 西九州大学 令和3年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和3年度検討 および実施事項	令和3年度総括	達成度
事務局 総務課 (課長)	<p><b>基準2. 学生</b>          『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理（継続）          ・教育目的の達成のために、環境推進委員会等で審議を重ね、より機能的で効果的な教育ができるよう検討及び整備する。</p> <p>③バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性（継続）          ・日常のキャンパスライフにおいて、施設・設備による支障が生じないよう引き続き改善を行う。</p> <p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用（継続）          ・学生支援委員会等と協力し、学生からの意見を汲み上げる仕組みを適切に整備する。          ・学生からの意見を、施設・設備及び学修環境の改善につなげる。</p> <p><b>基準4. 教員・職員</b>          『教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援』</p> <p><b>【4-1 教学マネジメントの機能性】</b></p> <p>③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性（継続）          ・企画委員会と協力し、教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確にする。</p> <p><b>【4-4 研究支援】</b></p> <p>③研究活動への資源の配分（継続）          ・研究活動の為の外部資金導入について、事務的な支援を行う。</p> <p><b>基準5 経営・管理と財務</b>          『経営の規律、理事会、管理　運営、財務基盤と収支、会計』</p> <p><b>【5-4 会計】</b></p> <p>①会計処理の適正な実施（継続）          ・学校法人会計基準及び「学校法人永原学園経理規程」等に則り継続的にを行い、適正な実施に努める。          ・予算額と大きくかけ離がある決算額の科目について、補正予算の編成を行う。</p>	<p>令和3年8月14日大雨による神埼C1号館被災の復旧（法面・建物・設備・備品等の整備）を行った。神埼C グラウンド環境改善のために整備を行った。教育環境整備のため、ネットワーク機器の入れ替え及び教職員用PCのノートPCへの更新（147台）を行った。大学院看護学専攻設置に伴う小城C院生自習室の整備を行った。環境推進委員会等での検討・審議は未実施。</p> <p>手洗い112ヶ所（神埼Cは100ヶ所、佐賀Cは12ヶ所）及び小便器42ヶ所（神埼Cは39ヶ所、佐賀Cは3ヶ所）を自動水栓化した。神埼C4号館1階ダイニングホールの改修（床・壁・照明・サイン等）を行った。神埼C学生ホールの空調設備を入れ替えた。</p> <p>令和4年2月1日（火）にスポーツ健康福祉学科において学生懇談会（各学年2人ずつ出席）が開催され、学生の意見等に対し、後日当該部署から説明や対応状況について回答した。</p> <p>令和4年3月8日（火）に学長、副学長、事務局長、教務部長・課長、学生支援部長・課長及び課員1人及び各学科2～3人ずつの卒業予定者による懇談会が開催された。</p> <p>学生からの意見・要望について今後情報を共有し、適宜検討することにより施設・設備及び学修環境の改善につなげることが必要。</p> <p>教育関連事項については、関連委員会（→企画委員会）→各学部教授会→学部長会議での審議により意思決定を行っている。各会議には、規定に則り担当職員（部長である教員を含む）あるいは事務局長が委員または事務担当として出席しており、学部長会議には法人本部長も参加して教学マネジメントを遂行している。今後も教学マネジメント機能の強化に向け、検討を継続する。</p> <p>科研費公募についての学内説明会を遠隔（zoom）にて実施し、大学・短大合わせて101人の教職員が参加した。デスクトップにて、外部資金の公募関連情報を提供した。応募書類の記載内容について、事務的確認を行った。科研間接経費にて派遣職員2人を配置した。</p> <p>①会計処理の適正な実施（継続）          ・学校法人会計基準及び「学校法人永原学園経理規程」等に則り継続的にを行い、適正な実施に努めた。          ・神埼キャンパスでの8月豪雨の土砂災害では、災害復旧経費を補正予算で編成した。令和3年度は、校外実習費や旅費等がコロナ禍の影響により補正予算額と決算額のかかけ離が</p>	8 10 8 8 8 8 10 8

	<p>②会計監査の体制整備と厳正な実施（継続） ・監査法人による外部監査、監事による監査及び内部監査を通じて、研究費等の不正使用防止や業務の適正かつ効率的な運営を図る。</p>	<p>あつた。</p> <p>②外部監査、監事による監査では、不正防止に関する内部統制の整備、運用状況や競争的研究費等の運営管理について、意見交換を行った。</p>	8
事務局 教務課 (課長)	<p><b>基準2. 学生</b> 『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』 【2-5 学修環境の整備】 ①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理（継続） ・各キャンパスにおける校地及び校舎の整備に伴う教室等の適切な運営・管理</p>	<p>①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理 ・2021年度はコロナ禍であったが、講義室等の使用は利用を行った。結果、機器の不具合が出たため、次年度は保守点検等を実施すべき必要性あり。</p>	8
事務局 学生支援課 (課長)	<p><b>基準2. 学生</b> 『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』 【2-6 学生の意見・要望への対応】 ②心身に関する健康相談、修学支援新制度における経済的支援をはじめとする学生生活に関して、学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 ・健康相談の指導体制充実（UPI テスト実施及び事後指導） ・学生生活実態調査の実施と課題解決に向けた検討</p>	<p>・昨年度はコロナ禍で年2回のUPIをwebで行ったが、回答率が悪かったため、2021年度は、前期ガイダンスは紙による実施、後期はwebにより実施し、出来る限り多くの学生のアンケート結果を学生相談室と共有し、心身面での支援をおこなった。 ・奨学金に加え、文科省からの「学びを継続するための緊急給付金」を速やかに案内、申請に関する支援を行い、281名の推薦をおこなった。 ・実態調査の令和3年度分析結果は教授会等で共有し、学科内で課題解決に役立ててもらった。</p>	10
		当該委員会 達成度集計	78/90
		達成度平均点	87/100

## 総合評価

各セクションの評価は以下のとおりである。

委員会等名	評価点	達成度 (%)
企画委員会	61/100	61
F D 委員会	67/90	74
大学院 F D 委員会	16/20	80
大学院研究科	60/80	75
健康栄養学科	152/170	89
社会福祉学科	208/280	74
スポーツ健康福祉学科	88/100	88
リハビリテーション学科	42/50	84
子ども学科	177/200	89
心理カウンセリング学科	143/160	89
看護学科	74/90	82
全学教務委員会	72/90	80
共通教育運営委員会	29/30	97
教職課程委員会	40/50	80
学生支援委員会	114/150	76
入試広報委員会	27/40	68
図書館	35/50	70
リカレント教育・研究推進本部	48/80	60
国際交流センター	23/30	77
情報メディアセンター	24/30	80
S D 委員会	4/10	40
教職センター	43/50	86
事務局	78/90	87
平 均	71/89	78

各セクションを平均した評価点は 71/89 となる。本学自己点検・評価運営委員会は、令和 3 年度の自己評価を「概ね順調に進んでいる」とする。

なお、達成度が 70%未満にとどまった委員会等には、次年度において未達成事項の改善を行うことを勧告する。